2023年度

授　業　概　要

日本体育大学医療専門学校

整復健康学科

授　業　概　要

柔道整復師専門課程の教育内容、授業科目及び単位数等

分野別	教育内容	単位数	授業科目	授業形態	単位数 1年	単位数 2年	単位数 3年	単位数計	時間数	頁
基礎分野	科学的思考の基礎	14	栄養学	講義	2			2	30	1
			自然科学	講義	4			4	60	2
	人間と生活		保健学	講義	4			4	60	3
			コミュニケーション	講義	2			2	30	4
			医療英語	講義	2			2	30	5
小計		14			14			14	210	
専門基礎分野	人体の構造と機能	28	解剖学1	講義	4			4	60	6
			解剖学2	講義		4		4	60	7
			解剖学3	講義			4	4	60	8
			生理学1	講義	4			4	60	9
			生理学2	講義		4		4	60	10
			生理学3	講義			4	4	60	11
			運動学	講義	2			2	30	12
			高齢者及び競技者の生理学	講義		2		2	30	13
	疾病と障害	18	病理学	講義		4		4	60	14
			一般臨床医学	講義			4	4	60	15
			外科学	講義	2			2	30	16
			整形外科学	講義			4	4	60	17
			リハビリテーション医学	講義		4		4	60	18
	柔道整復術の適応	2	臨床鑑別学	講義		2		2	30	19
	社会保障制度	1	社会保険学	講義	1			1	15	20
	保険医療福祉と柔道整復の理念	11	公衆衛生学・衛生学	講義			4	4	60	21
			柔道1	実技	2			2	60	22
			柔道2	実技		2		2	60	23
			関係法規	講義			2	2	30	24
			医療概論	講義	1			1	15	25
小計		60			16	22	22	60	960	
専門分野	基礎柔道整復学	26	整復総論1	講義	4			4	60	26
			整復総論2	講義	4			4	60	27
			整復運動学	講義	4			4	60	28
			整復外科学	講義			2	2	30	29
			整復基礎医学	講義		4		4	60	30
			整復整形外科	講義		2		2	30	31
			整復病理学	講義			2	2	30	32
			整復リハビリテーション医学	講義			2	2	30	33
			整復施術学	講義	2			2	30	34
	臨床柔道整復学	30	整復各論1	講義	2			2	30	35
			整復各論2	講義		4		4	60	36
			整復各論3	講義		2		2	30	37
			整復各論4	講義		4		4	60	38
			整復各論5	講義		4		4	60	39
			整復各論6	講義		2		2	30	40
			整復各論7	講義			4	4	60	41
			整復各論8	講義			2	2	30	42
			総合演習理論	講義			4	4	60	43
			後療法理論	講義			2	2	30	44
	柔道整復実技	19	整復実技1	実技	2			2	60	45
			整復実技2	実技	2			2	60	46
			整復実技3	実技		2		2	60	47
			整復実技4	実技			2	2	60	48
			整復実技5	実技		1		1	30	49
			整復実技6	実技		2		2	60	50
			整復実技7	実技			2	2	60	51
			整復実技8	実技			2	2	60	52
			総合演習実技	実技			2	2	60	53
			外傷予防実技	実技			2	2	60	54
	臨床実習	4	臨床実習1	臨床実習	1			1	45	55
			臨床実習2	臨床実習		2		2	90	56
			臨床実習3	臨床実習			1	1	45	57
小計		79			21	29	29	79	1590	
合計		153			51	51	51	153	2760	

1	区分	基礎分野	形式	講義	前期　火曜日
授業科目名		栄養学	単位数		2
担当教員		小谷　鷹哉	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

生物が生命現象を営むということは、生体内で代謝が行われていることをあらわし、代謝に必要な物質を生体内に取り込み、不要になった物質を排泄している。この現象が栄養である。本授業では、心身の健康の保持・増進、疾病の予防のため、栄養素の構造と機能、消化・吸収のメカニズム、代謝といった、柔道整復師として必要とされる生理学的な基礎知識について学修する。さらに応用として、スポーツ活動時におけるコンディショニングや、さまざまな目的を達成するための具体的な栄養摂取法についても学修する。 本授業では、栄養の意義、健康の維持における栄養の役割、ライフステージに応じた適切な食事、さらに、スポーツと栄養に関する基礎的な知識を習得し、説明できることをねらいとする。

【授業計画】

1	4/11	栄養学とは, 栄養素の分類			
2	4/18	エネルギーの摂取と消費			
3	4/25	糖質の消化と吸収			
4	5/9	糖質の貯蔵と利用			
5	5/16	脂質の消化と利用			
6	5/23	脂質の貯蔵と利用			
7	5/30	タンパク質の消化と吸収			
8	6/6	中間試験			
9	6/13	中間試験解説,サプリメント			
10	6/20	骨格筋におけるタンパク質代謝			
11	6/27	サプリメントの種類・摂取			
12	7/4	骨格筋ミトコンドリアの適応機序の理解と応用			
13	7/11	肥満と脂肪による熱産生			
14	7/18	アスリートにおける目的別の栄養管理			
15	8/1	前期期末試験			
16	8/8	試験解説,アスリートの食事管理の実際			

学習上の注意	授業内容をよく見直してください。本授業で学んだ知識を活かして、食事やトレーニングの立案・改善に関する助言や実践ができることを求めます。		
評価方法	授業への取組み状況,中間試験（50%）, 前期末試験（50％）により総合的に評価します。 前期末試験の60%以上の得点をもって合格とします。		
教科書		参考書	

2	区分	基礎分野	形式	講義	前期　火曜日 後期　金曜日
授業科目名		自然科学	単位数		4
担当教員		吉田　裕輝	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

科学的な思考・知識を身につけることは、柔道整復師にとって医療に携わる上で、必要不可欠な要素である。この授業では、特に自然科学の中でも生物学、化学を中心に構成する。高校までで学習した内容も振り返りながら進行していくが、最新の科学的知見や研究により明らかになってきたメカニズムの紹介も行っていく。国家試験に直接つながる内容を多く実施していく為、医学系の専門科目や専門基礎科目を学ぶ際の基礎知識として必要不可欠なものである。授業は単元ごとに進めていくが、1年を通してこの講義を聴くことで、それぞれの単元のつながりや関わり合いが見えてくることが期待される。そうなることによって、知識の習得のみにとどまらず、生物学の面白さを感じられることを目指している。

【授業計画】

1	4/11	授業概要、人体を構成する要素　生命の単位	17	9/22	エネルギー代謝とATP合成
2	4/18	細胞のはたらき　細胞小器官	18	9/29	細胞分裂①　体細胞分裂
3	4/25	細胞のはたらき　膜の構造,細胞骨格	19	10/6	細胞分裂②　減数分裂
4	5/9	遺伝子発現からタンパク合成過程 (セントラルドグマ)	20	10/20	遺伝①　メンデル遺伝と形質発現の仕組み
5	5/16	物質の輸送(受動輸送と能動輸送)	21	10/27	遺伝②　遺伝子異常とその疾患
6	5/23	組織と器官　上皮組織、支持組織	22	11/10	遺伝③　染色体数の異常と疾患
7	5/30	組織と器官　筋組織、神経組織	23	11/17	発生と分化
8	6/6	中間試験、これまでのまとめ	24	11/24	消化と消化管の基本構造
9	6/13	ヒトを形づくる元素	25	12/1	消化酵素とその産生臓器
10	6/20	糖質の種類とその化学構造	26	12/8	消化に関与するホルモン
11	6/27	脂質の種類とその化学構造	27	12/15	栄養素の吸収
12	7/4	アミノ酸とたんぱく質の種類とその化学構造	28	1/12	肝臓の働き
13	7/11	DNA,RNAの化学構造	29	1/19	胆汁とヘモグロビン代謝
14	7/18	核酸関連物質の化学構造	30	1/26	筋収縮の分子機構
15	8/1	前期期末試験	31	2/2	後期期末試験
16	8/8	前期期末試験解答解説、前期まとめ	32	2/9	後期期末試験の解答解説、総復習まとめ

学習上の注意	復習に重点を置いて学習すること。私語は慎むこと。 携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用は禁止する。		
評価方法	前期・後期期末試験を主として評価。これに臨時試験及び授業態度等を加味し、総合的に評価する。		
教科書	全国柔道整復学校協会監修 「生理学」(南江堂)「解剖学」(医歯薬出版)	参考書	基礎的内容の理解が不十分な学生は各自必要に応じて高校生物の参考書等を利用することが望ましい。

3	区分	基礎分野	形式	講義	前期　火曜日 後期　月曜日
授業科目名		保健学	単位数		4
担当教員		木村　直人	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

保健学の意図するところは、人々の疾病を予防し、健康の維持・増進をはかり、延命をもはかる科学である。本校における保健学は、前期に学習した衛生学を基礎とし、運動・スポーツが及ぼす身体への効果（影響）を明らかにしながら、自分の体を用いて測定を行う実験実習も合わせて学修し、健康への理解を深める。

【授業計画】

1	4/11	健康の捉え方（健康の定義）	17	9/25	競技選手の健康管理（身体組成）
2	4/18	健康の捉え方（歴史的変遷）	18	10/2	競技選手の健康管理（運動処方）
3	4/25	健康の捉え方（WHO、健康日本21）	19	10/16	競技選手の健康管理（呼吸循環機能）
4	5/9	健康に関わる統計①	20	10/23	競技選手の健康管理（内科的障害）
5	5/16	健康に関わる統計②	21	10/30	競技選手の健康管理（外科的障害）
6	5/23	健康のとらえ方（外因と内因）	22	11/6	スポーツ障害、コンデショニング
7	5/30	生活習慣病について	23	11/13	体格、体組成の評価　①（インピーダンス法）
8	6/6	中間試験	24	11/20	筋力・パワーの評価　①
9	6/13	健康づくり（運動、栄養、休養）	25	11/27	循環器系の評価　①（血圧、心拍数）
10	6/20	健康づくり（運動、栄養、休養）	26	12/4	循環器系の評価　②（肺活量）
11	6/27	健康と喫煙	27	12/11	呼吸・循環器系について①
12	7/4	健康と飲酒	28	12/18	呼吸・循環器系について②
13	7/11	日常的な応急手当て（暑熱傷害）	29	1/15	統計処理
14	7/18	寒冷障害、騒音	30	1/22	レポート作成の説明
15	8/1	前期期末試験	31	1/29	後期期末試験（レポート提出及び評価）
16	8/8	前期期末試験の答え合わせ	32	2/5	レポートの再提出

学習上の注意	本授業では、運動スポーツに関わる様々な項目を、自分自身の身体を使って測定、評価を行う。したがって、授業に関しては講義もあるが、実験実習も行うので測定しやすい服装にて参加すること。		
評価方法	出席回数、試験（前期）及びレポート（後期）にて評価する。		
教科書		参考書	

4	区分	基礎分野	形式	講義	後期・木曜日
授業科目名		コミュニケーション	単位数		2
担当教員		佐伯 晴子	履修年次		整復1年次

【授業の概要・到達目標】

信頼される社会人、柔道整復師としての「読む」「書く」「聴く」「話す」コミュニケーション能力を修得する。
1. 失礼のない態度と言葉遣いで人と接することができる。
2. 文献や資料を読み理解し、求められる形式に応じて適切に書く。
3. 積極的に傾聴する。
4. 相手に合わせてわかりやすく話す。
医学部・歯学部での指導経験を活かし、医療職として信頼できる態度と望ましいコミュニケーションを指導する。

【授業計画】

			1	9/28	医療コミュニケーション概説 医療人に求められるコミュニケーション能力
			2	10/5	伝達トレーニング、ジェスチャーコミュニケーション
			3	10/12	教科書 第1課Ⅳ文の構造・Ⅴ助詞
			4	10/19	うなずきと相槌、繰り返し、三つの姿勢
			5	10/26	教科書 第3課 敬語・敬意表現を使おう
			6	11/2	喜ばれる言葉と嫌われる言葉、 敬語テスト
			7	11/9	助言トレーニング、 質問の技法(コーチング)
			8	11/16	振り返りによるスキルアップ、プロセス・レコード
			9	11/30	教科書 第2課Ⅱ説明をする
			10	12/7	教科書 第4課Ⅰ文章の要約
			11	12/14	教科書 第4課Ⅲ手紙文 Ⅳ案内文
			12	1/11	医療面接(初回面接)ロールプレイ
			13	1/18	要約の技法、共感の技法
			14	1/25	教科書 第5課Ⅰグラフ・表の分析
			15	2/1	後期期末試験 (敬語・医療面接・手紙文・グラフを中心に出題)
			16	2/8	試験解説 集団討議・エゴグラム・ポジティブフィードバック

学習上の注意	授業は演習を中心に行うので、教科書については、解答例を参考にして、各自で予習復習をすること。授業中の私語、スマホ、携帯電話の使用、飲食および、他学生の学習の迷惑になる行為は禁止する。		
評価方法	出席率(遅刻率)と参加態度20%、授業中の課題と小テスト30%、後期試験50%		
教科書	「大学生のための日本語表現実践ノート 改訂版」風間書房	参考書	「人間関係とコミュニケーション」諏訪茂樹編著「あなたの患者になりたい」佐伯晴子著

5	区分	基礎分野	形式	講義	前期 金曜日
授業科目名		医療英語	単位数		2
担当教員		坂井 成美	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

①柔道整復の医療環境で使用される一般的な語彙、また、専門的分野で必要な語彙を増やすことができる。
②比較的易しい英文の意味を正しく理解できるようになる。
③使用頻度の高い会話表現を声に出して練習することで、英語で患者さんとコミュニケーションができるようになる。

【授業計画】

1	4/7	ガイダンス			
2	4/14	柔道整復について説明するための表現			
3	4/28	受け付けのための表現			
4	5/5	患者の主訴を理解するための表現			
5	5/12	身体観察・評価のための表現			
6	5/19	評価の告知のための表現			
7	5/26	施術開始時、施術時の表現			
8	6/2	中間試験			
9	6/9	整復の施術のための表現			
10	6/16	固定の施術のための表現			
11	6/23	物理療法の施術のための表現			
12	6/30	運動療法の施術のための表現			
13	7/7	手技療法の施術のための表現			
14	7/14	処置・施術後の表現			
15	7/28	前期期末試験			
16	8/4	総括と展望。これまでの学習内容の要旨を確認。			

学習上の注意	授業計画は進度によって変更することがありますので、毎時の指示に注意してください。 授業では、google classroomを使用します。ｸﾗｽｺｰﾄﾞは7i44qd5です。		
評価方法	毎時間の小テスト及び課題提出20%、中間テスト10%、期末試験70%		
教科書	『柔道整復師のための英会話表現』塩川春彦著 医歯薬出版 2022年発行 ISBN978-4-263-24093-9 C3047	参考書	

6	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期　水曜日 後期　木曜日
授業科目名		解剖学1	単位数		4
担当教員		川島　友和	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

前期中間試験までの講義では、『人体解剖学総論』として、関連領域の理解のための導入としてそれらの概要を学ぶ。前期後半部より、『人体解剖学各論』として各器官系の学習を開始する。解剖学1では、脈管系、消化器系について学習する。各論の授業では、板書を通じて人体の各構造物を形態学的(視覚的に)にその立体構造を理解する事が最重要事項とする。講義の各器官系講義が終了後、可能な限り国家試験過去問題の解説等も行う予定である。

【授業計画】

1	4/12	解剖学概論1(意義、役割、各器官系概要)	17	9/28	脈管系各論3(大動脈本幹とその枝)
2	4/19	解剖学概論2(細胞、組織、発生)	18	10/5	脈管系各論4(大静脈本幹とその枝)
3	4/26	骨格系総論	19	10/12	脈管系各論5(四肢の脈管系)
4	5/10	筋系・末梢神経系総論	20	10/19	脈管系各論6(頭頸部の脈管系)
5	5/17	脈管系総論	21	10/26	脈管系各論7(胎児循環・皮静脈)
6	5/24	消化器系総論	22	11/2	脈管系各論8(リンパ系)、脈管系
7	5/31	呼吸器系総論	23	11/9	消化器系各論1(口腔1)
8	6/7	中間試験	24	11/16	消化器系各論2(口腔2)
9	6/14	試験解説	25	11/30	消化器系各論3(咽頭、食道、胃1)
10	6/21	泌尿器生殖器総論	26	12/7	消化器系各論4(胃～小・大腸)
11	6/28	中枢神経系総論	27	12/14	消化器系各論5(消化管の鑑別)
12	7/5	脈管系各論1(心臓1)	28	1/11	消化器系各論6(肝臓・胆嚢)
13	7/12	脈管系各論2(心臓2)	29	1/18	消化器系各論7(膵臓、腹膜1)
14	7/19	総論まとめと復習、試験対策	30	1/25	消化器系各論8(腹膜2)、消化器系
15	8/2	前期期末試験	31	2/1	後期期末試験
16	8/9	解答・解説	32	2/8	解答・解説

学習上の注意	毎回の配布プリントを持参し、参考とする事。板書の際に、12色の色ペンもしくは色鉛筆を使用するので用意する事。 講義中の私語や立ち歩きを禁止する。トイレは授業前に済ませておくこと。		
評価方法	定期試験に出席を加味して評価を行う。受講態度を加味する。		
教科書	『解剖学』全国柔道整復学校協会 編(医歯薬出版)	参考書	

7	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期　水曜日 後期　木曜日
授業科目名		解剖学2	単位数		4
担当教員		川島　友和	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

解剖学2では、呼吸器系・泌尿生殖器系・感覚器系・神経系といった臓性構造である内臓学各論の学習を行う。人体発生学・比較解剖学背景やそれらの臨床的意義にも注意を払いながら、黒板への板書や補助配布プリントを利用し、人体立体構造を理解することを目的とする。前後期末試験や国家試験においては様々な解剖学用語を知る事は重要であるが、少なくとも授業では板書を通じて人体を立体構造を理解する事が最重要事項としている。各器官系終了後、可能な限り国家試験過去問題の解説等も行う予定である。

【授業計画】

1	4/12	呼吸器系各論1 （外鼻、鼻腔）	17	9/28	中枢神経系各論1（区分、発生、構成）
2	4/19	呼吸器系各論2 （咽頭、喉頭）	18	10/5	中枢神経系各論2 （脳幹～大脳1）
3	4/26	呼吸器系各論 （気管、気管支）	19	10/12	中枢神経系各論3 （大脳2、脳室、脳脊髄液）
4	5/10	呼吸器系各論4 （肺、胸膜）	20	10/19	中枢神経系各論4 （硬膜静脈洞、伝導路）、脳神経
5	5/17	呼吸器系各論5 （横隔膜）、呼吸器系	21	10/26	中枢神経系各論5（まとめ）、 中枢神経系
6	5/24	泌尿器系各論1 （腎臓の構造、腎筋膜）	22	11/2	末梢神経系各論1 （体幹部の神経）
7	5/31	泌尿器系各論2 （尿管、膀胱、尿道）	23	11/9	末梢神経系各論2 （頸部の神経、上肢の神経1）
8	6/7	生殖器系各論1 （発生、男性生殖器1）	24	11/16	末梢神経系各論3 （上肢の神経2）
9	6/14	生殖器系各論2 （男性生殖器2、女性生殖器）	25	11/30	末梢神経系各論4 （下肢の神経）
10	6/21	生殖器系各論3（生殖器対応関係）、 泌尿生殖器	26	12/7	末梢神経系各論5（頭部、顔面部の神経）
11	6/28	感覚器系各論1 （外皮、視覚器1）	27	12/14	末梢神経系各論6（自律神経系）
12	7/5	感覚器系各論2 （視覚器2）	28	1/11	末梢神経系各論7（まとめ）、 末梢神経系
13	7/12	感覚器系3 （聴覚平衡覚器）	29	1/18	内分泌系1（内分泌概論）
14	7/19	感覚器系4：（味覚器、嗅覚器）、 感覚器	30	1/25	内分泌系2（局所解剖）
15	8/2	前期期末試験	31	2/1	後期期末試験
16	8/9	解答・解説	32	2/8	解答・解説

学習上の注意	毎回の配布プリントを持参し、参考とする事。板書の際に、12色の色ペンもしくは色鉛筆を使用するので用意する事。 講義中の私語や立ち歩きを禁止する。トイレは授業前に済ませておくこと。		
評価方法	定期試験に出席を加味して評価を行う。受講態度を加味する。		
教科書	『解剖学』全国柔道整復学校協会 編（医歯薬出版）	参考書	

8	区分	専門基礎分野	形式	講義	通年　木曜日
授業科目名		解剖学3	単位数		4
担当教員		中山　光子	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

1-2学年で学習した全範囲の復習と国家試験に向けてのポイントを講義します。
全身の構造と役割を説明できることを到達目標とします。前期・後期を通して理解し覚えなければならない内容や用語がたくさんありますが、諦めずに卒業＆国家試験合格をめざして頑張ってください。

【授業計画】

1	4/6	発生・細胞・組織の復習と演習問題	17	9/28	消化器系の復習と演習問題　1 (口腔～直腸)
2	4/13	骨格系と演習問題　1 (骨構造・関節の構造と種類)	18	10/5	消化器系の復習と演習問題　2 (消化腺)
3	4/20	骨格系と演習問題 2(頭蓋骨)	19	10/12	泌尿器の復習と演習問題　3 (腎臓・尿管・膀胱・尿道)
4	4/27	骨格系と演習問題 3(四肢骨と関節)	20	10/19	生殖器系と演習問題 (男性生殖器・女性生殖器)
5	5/11	骨格系と演習問題 4(四肢骨と関節)	21	10/26	内分泌系と演習問題 (構造と分泌されるホルモン)
6	5/18	骨格系と演習問題　5(脊柱)	22	11/2	神経系と演習問題　1(硬膜・大脳)
7	5/25	筋系と演習問題　1 (筋の構造・頭頚部の筋)	23	11/9	神経系と演習問題　2(間脳～脊髄)
8	6/1	筋系と演習問題　2(体幹の筋)	24	11/16	神経系と演習問題　3(脳神経)
9	6/8	筋系と演習問題　3(上肢)	25	11/30	神経系と演習問題　4(脊髄神経)
10	6/15	筋系と演習問題　5(下肢)	26	12/7	後期期末試験
11	6/22	呼吸器系と演習問題	27	12/14	後期期末試験解説
12	7/6	循環器系と演習問題　1(血管・心臓)	28	1/11	神経系と演習問題　5(自律神経)
13	7/13	循環器系と演習問題　2(動脈系)	29	1/18	感覚器　1(皮膚・視覚器・嗅覚)
14	7/20	循環器系と演習問題　3 (静脈系・リンパ系・脾臓)	30	1/25	感覚器　2(聴覚器・平衡器・味覚)
15	8/3	前期期末試験	31	2/1	体表解剖　1(体表区分)
16	8/10	前期期末試験解説	32	2/8	体表解剖　2(脈管系)・確認テスト

学習上の注意	クラスメートの学習を妨害する行為(私語・立ち歩き)を行う学生は退出させます。 プリント等を配付するので、各自ファイルを用意すること。		
評価方法	課題の提出状況(10%)　、前期及び後期期末試験(それぞれ40%)をもって評価		
教科書	『解剖学』全国柔道整復学校協会 編(医歯薬出版)	参考書	Qシリーズ新解剖学 加藤征監修(日本医事新報社)

9	区分	専門基礎分野	形式	講義	通年　金曜日
授業科目名		生理学1	単位数		4
担当教員		池本　英志	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

生理学は、人体の機能とそのメカニズムを追及する学問です。ヒトは刻々と変化する環境に対応して、生命の維持を図らなければなりません。そのため人体にはさまざまな器官があり、一定の働きを持った器官ごとにまとまって「系」を形成しています。1年次では内分泌系、筋・骨格系、循環器系、呼吸器系を中心にそれぞれの機能を学びます。またそれらの系は環境変化に対して別々に働いているのではなく、お互いに連携しあって機能していることも学びます。

【授業計画】

1	4/7	ガイダンス　生理学の基礎	17	9/22	筋肉①　筋の種類と特徴
2	4/14	内分泌①　ホルモンの一般的性質	18	9/29	筋肉②　筋収縮のメカニズム
3	4/28	内分泌②　甲状腺のホルモン	19	10/6	筋肉③　その他
4	5/5	内分泌③　副腎皮質のホルモン	20	10/20	循環と呼吸の概論
5	5/12	内分泌④　副腎髄質のホルモン	21	10/27	循環器①　心臓の機能
6	5/19	内分泌⑤　膵臓のホルモン	22	11/10	循環器②　心筋の興奮性　心電図
7	5/26	内分泌⑥　性腺のホルモン	23	11/17	循環器③　血管系
8	6/2	中間試験	24	11/24	循環器④　血圧
9	6/9	試験解説	25	12/1	循環器⑤　循環の調節
10	6/16	内分泌⑦　視床下部のホルモン	26	12/8	呼吸器①　呼吸器の構造　換気
11	6/23	内分泌⑧　下垂体のホルモン	27	12/15	呼吸器②　血液中の酸素・二酸化炭素の運搬
12	6/30	内分泌⑨　副甲状腺のホルモン	28	1/12	呼吸器③　呼吸の調節
13	7/7	骨①　骨の構造・形成	29	1/19	体温①　熱産生と熱放散
14	7/14	骨②　カルシウム代謝の調節	30	1/26	体温②　体温の調節
15	7/28	前期期末試験	31	2/2	後期期末試験
16	8/4	試験解説	32	2/9	試験解説

学習上の注意	将来の職業を柔道整復師と決めた学生が多いと思います。 学ぶ環境を妨げないように、私語は慎んで下さい。		
評価方法	出席率, 中間試験, 期末試験の結果により総合的に評価する。		
教科書	全国柔道整復学校協会監修 「生理学」（南江堂）	参考書	

10	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期　火曜日 後期　金曜日
授業科目名		生理学2	単位数		4
担当教員		浅野　和仁	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

概要：ヒトが生命を維持していくためには、様々な環境変化に対応していかなくてはならない。そのための調節を行っているのが、神経系と感覚系である。また、生命維持のためには外界からエネルギー源となる物質を取り込む必要がある。本講義では、生体の環境適応機序とエネルギー摂取機序を学ぶとともに生命活動によって生成された老廃物の排泄方法を理解する。
到達目標：生命活動を維持するために必要な環境適応機序と体内環境の一定化機序の関連性を総合的に理解する。

【授業計画】

1	4/11	神経①　神経の区分、静止膜電位と活動電位	17	9/22	消化と吸収① 口腔内消化と唾液、唾液分泌機序とその調節
2	4/18	神経②　興奮の伝導と伝達、シナプス	18	9/29	消化と吸収② 胃の消化と胃液、胃液分泌機序とその調節
3	4/25	自律神経①　自律神経の機能	19	10/6	消化と吸収③ 小腸の消化と膵液、膵液分泌機序
4	5/9	自律神経②　自律神経と内臓機能調節	20	10/20	消化と吸収④ 肝臓の機能と胆汁、胆汁分泌機序
5	5/16	中枢神経①　中枢神経の区分と機能	21	10/27	消化と吸収⑤　嚥下と消化管運動、排便機序
6	5/23	中枢神経②　中枢神経と反射、運動の調節	22	11/10	栄養と代謝① 糖質の代謝、解糖系、クエン酸回路
7	5/30	感覚の種類、刺激の受容と受容器の機能	23	11/17	栄養と代謝②　脂質の代謝、β―酸化
8	6/6	体性感覚①　触・圧・振動感覚	24	11/24	栄養と代謝③ タンパク質の代謝、オルニチン回路
9	6/13	体性感覚②　温度感覚、痛覚	25	12/1	栄養と代謝④　酵素と酵素反応
10	6/20	体性感覚③　体性感覚伝導路	26	12/8	栄養と代謝⑤ 窒素化合物の代謝、ビタミン
11	6/27	特殊感覚①　嗅覚と伝導路	27	12/15	栄養の保持と視床下部
12	7/4	特殊感覚②　味覚と伝導路	28	1/12	尿の生成と排泄①　腎の構造と機能、尿の成分
13	7/11	特殊感覚③　聴覚、平衡感覚と伝導路	29	1/19	尿の生成と排泄②　再吸収と排泄
14	7/18	特殊感覚④　視覚と伝導路	30	1/26	尿の生成と排泄③ 膀胱の機能、排尿の調節、畜尿・排尿反射
15	8/1	前期期末試験	31	2/2	後期期末試験
16	8/8	前期試験解説と要点のまとめ	32	2/9	期末試験の解説と後期のまとめ

学習上の注意	疑問点は授業中に積極的に質問し、解決すること。 携帯電話やスマホ等の電子機器の授業中の使用は厳禁とする。		
評価方法	出席は定期試験受験のための必要条件であるが、評価には使用しない。 定期試験によってのみ評価する。		
教科書	指定しない。授業では配布したプリントを使用する。	参考書	全国柔道整復学校協会監修「生理学」

11	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期　火曜日 後期　金曜日
授業科目名		生理学3	単位数		4
担当教員		浅野　和仁	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

概要：生体が正常な機能を維持するためには体内部の環境を一定にする(ホメオスタシスの維持)とともに体外から侵入してくる異物から体を守る必要がある。これらの生体機能は血液と免疫系によって担われている。また、ホメオスタシスの維持には神経系や内分泌系も重要な役割を果たしている。本講義では、血液や免疫系の機能について学習するとともにホメオスタシス維持機構について総合的に学ぶ。
到達目標：生体を構成している運動器系、循環器系、呼吸器系等が相互に連携し、生命維持に関わっていることを理解する。

【授業計画】

1	4/11	腎と酸塩基平衡①　酸とは、塩基とは	17	9/22	生殖と老化②、性ホルモンと生殖器の変化、老化と遺伝子
2	4/18	腎と酸塩基平衡②　酸塩基平衡調節機序	18	9/29	生殖と老化②、加齢と老化、老化とホメオスタシスの変化
3	4/25	水分保持機構と腎機能、渇き中枢	19	10/6	遺伝子と遺伝
4	5/9	血液①　血液とその機能	20	10/20	心臓の電気現象と心電図
5	5/16	血液②　血液の成分とその機能、血液型	21	10/27	ホメオスタシスの維持と末梢神経
6	5/23	血液③　赤血球の構造と機能、 赤血球の破壊とビリルビン代謝	22	11/10	ホメオスタシスの維持と中枢神経、 摂食中枢・満腹中枢、渇き中枢
7	5/30	血液④　止血と血液凝固機序	23	11/17	腎機能とホメオスタシスの維持
8	6/6	血液⑤　白血球の種類と機能	24	11/24	循環調節とホメオスタシス
9	6/13	免疫①　生体防御反応と免疫、免疫担当細胞	25	12/1	フィードバク機構とホメオスタシスの維持
10	6/20	免疫② 自然免疫と獲得免疫、免疫反応発現機序	26	12/8	後期期末試験
11	6/27	免疫③　液性免疫と細胞性免疫	27	12/15	後期期末試験解説
12	7/4	免疫④　自己免疫疾患とその発現機序	28	1/12	エネルギー代謝とホルモン
13	7/11	免疫⑤　アレルギーと移植の拒絶反応発現機序	29	1/19	物質代謝とホルモン
14	7/18	生殖と老化①、生殖と生殖関連ホルモン	30	1/26	骨とホルモン、無機質の代謝と生体機能調節
15	8/1	前期期末試験	31	2/2	感覚と生体機能調節
16	8/8	前期試験解説	32	2/9	運動(筋機能)・反射と生体機能調節・確認テスト

学習上の注意	疑問点は授業中に積極的に質問し、解決すること。 携帯電話やスマホ等の電子機器の授業中の使用は厳禁とする。		
評価方法	出席は定期試験受験のための必要条件であるが、評価には使用しない。 定期試験によってのみ評価する。		
教科書	指定しない	参考書	参考書：全国柔道整復学校協会監修「生理学」

12	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期　木曜日
授業科目名		運動学	単位数		2
担当教員		中山　光子	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

解剖学・生理学で学んだ“運動器の構造と機能”に関する理解をもとに、運動学の概念、力学の身体運動への応用、運動生理、身体の発育・発達、運動学習など、人の運動行動を幅広く学習します。これらを理解し、説明できるようになることを到達目標とします。

【授業計画】

			1	9/28	運動学総論（基本姿勢・運動の面と軸）
			2	10/5	身体運動と力学（運動の種類等）
			3	10/12	身体運動と力学（てこの構造）
			4	10/19	身体運動と力学（滑車・運動の法則）
			5	10/26	身体運動と力学（質量・重量・力の単位）
			6	11/2	身体運動と力学(仕事と力学的エネルギー)
			7	11/9	姿　勢（重心・立位姿勢）
			8	11/16	姿　勢（立位姿勢の制御・機能肢位）
			9	11/30	歩　行
			10	12/7	歩　行（歩行の男女差等）
			11	12/14	異常歩行と走行
			12	1/11	運動発達（子供の発育・発達）
			13	1/18	運動発達（原始反射）
			14	1/25	運動学習
			15	2/1	後期期末試験
			16	2/8	後期期末試験の解説

学習上の注意	教科書を毎回使用します。忘れずに。 クラスメートの学習を妨害する行為（私語・立ち歩き等）を行う学生は退出させます。		
評価方法	課題の提出状況(10%)　、前期及び後期期末試験(それぞれ40%)をもって評価		
教科書	「運動学」（斎藤　宏著　医歯薬出版株式会社）	参考書	

13	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期　水曜日
授業科目名		高齢者及び競技者の生理学	単位数		2
担当教員		高山　靖規	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

柔道整復師は運動器の専門家です。近年では、介護施設の機能訓練指導員として、またスポーツ選手たちのトレーナーとして働く柔道整復師も増えており、活躍の場は拡がっています。この授業では、1年次と2年次前期で学んだ「生理学」を踏まえたうえで、「老化」によって低下していく生理学的な機能と、「スポーツ」によって高められる生理学的な機能についてより専門的に学びます。これによって、高齢者や競技者についての理解を深め、将来、信頼関係が構築できる土壌を養います。

【授業計画】

			1	9/27	発達と老化
			2	10/4	高齢者の身体的変化
			3	10/11	高齢者の精神的変化
			4	10/18	高齢者に好発する疾患・外傷 I
			5	10/25	高齢者に好発する疾患・外傷 II
			6	11/8	ロコモティブシンドローム
			7	11/15	栄養と酸素
			8	11/22	赤筋と白筋
			9	11/29	運動と循環
			10	12/6	運動と呼吸
			11	12/13	オーバートレーニング症候群
			12	1/10	女性アスリートの三主徴
			13	1/17	運動と痛み
			14	1/24	総括
			15	1/31	後期期末試験
			16	2/7	試験内容の解説

学習上の注意	講義は主にパワーポイントで行い、講義資料はプリントで配布する。そのため、参考資料などを買い揃える必要はない。		
評価方法	期末試験の結果により評価する。		
教科書	全国柔道整復学校協会監修 「生理学」（南江堂）	参考書	中里浩一ら「1から学ぶスポーツ生理学」(ナップ)、人体の正常構造と機能(日本医事新報社)

14	区分	専門基礎分野	形式	講義	通年　月曜日
授業科目名		病理学	単位数		4
担当教員		甘利　雅雄	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

病理学とは生体に発症した疾病がどの様な原因（病因）でおこり、どのような変化（病変）をもたらし、どの様に推移（経過）し、最終的にはどうなるか（転機・予後）といった疾病の本態を組織学的に解明する医学の1分科である。2年生では先ず、生体の機能や代謝異常が生じた場合にはどの様な疾病が発症するか、その原因は何か、どの様な転機が生じるか、といった疾病成立の過程を正確に理解して下さい。この目的達成のために大切な2点を申し上げておきます。1点は、病理学は基礎医学と臨床医医学を繋ぐ学問ですから解剖学、生理学や組織学などの基礎知識が絶対に必要であること。2点目は、病理学講義の中に出てくる用語や疾病の定義をノートにまとめ直し確実に覚えて下さい。これによって疾病の本態がみえてきます。病理学で学んだ内容を自分なりに整理する勤勉さこそが国試合格への着実な一歩になると思います。

【授業計画】

1	4/10	序論1：①病理学とは。②病理学の領域。 ③病理標本の作製法。	17	9/25	循環障害1：①大（小）循環とは。②循環障害の原因。
2	4/17	序論2：①疾病の意義。②疾病の進展様式。	18	10/2	循環障害2：①局所性と全身性うっ血。②傍側循環。
3	4/24	病因論1：内因①一般的素因。②心身症。	19	10/16	循環障害3：①出血。②播種性血管内凝固症候群。
4	5/8	病因論2：外因①三大栄養障害。②年齢。 ③性。④免疫。	20	10/23	循環障害4：①血液凝固。②血栓。③塞栓。
5	5/15	病因論3：外因①ビタミン。②ミネラル。	21	10/30	循環障害5：①虚血。②出血性梗塞。
6	5/22	病因論4：外因①物理的因子。	22	11/6	循環障害6：①脳血管障害。②浮腫。
7	5/29	病因論5：外因①化学的因子。②生物学的因子。	23	11/13	循環障害7：①脱水。②血圧。
8	6/5	退行性病変1：①混濁腫脹。②アミロイド変性。	24	11/20	炎症1：急性炎症と組織学的反応 （第1期から第3期）。
9	6/12	退行性病変2：①線維素変性。②脂肪変性。 ③糖原変性。	25	11/27	炎症2：①炎症細胞の機能。②急性炎症の分類。
10	6/19	退行性病変3：①糖質変性。②色素変性。 ③結石。	26	12/4	炎症3：①実質性炎。②滲出性炎。
11	6/26	退行性病変4：①変性。②萎縮。③壊死。	27	12/11	炎症4：①間質性炎。②特異性炎。
12	7/3	退行性病変5：①加齢変化。②全身死と死後変化。	28	12/18	免疫1：①ヒト白血球抗原と抗原提示細胞。 ②自然免疫と獲得免疫。
13	7/10	進行性病変1：①肥大。②過形成。③再生。④化生。	29	1/15	免疫2：完全抗原と不完全抗原の特徴。
14	7/24	進行性病変2：①肉芽組織。②異物処理。	30	1/22	免疫3：液性抗体と細胞性抗体の分化と機能。
15	7/31	前期期末試験：序論から進行性病変迄。	31	1/29	後期期末試験： 循環障害から炎症迄を試験範囲とする。
16	8/7	期末試験問題の解答と解説。	32	2/5	期末試験問題の解答と解説。 免疫4：①ｻｲﾄｶｲﾝ。②補体。

学習上の注意	授業ごとに配布した資料はバインダーなどに閉じるなどして整理してください。 資料と教科書は、授業ごとに必ず持参してください。 授業中の飲水や携帯の操作は謹んで下さい。		
評価方法	期末試験の結果のみで判定します。		
教科書	病理学概論（改訂第3版、 全国柔道整復学校協会監修、医歯薬出版株式会社）	参考書	

15	区分	専門基礎分野	形式	講義	通年　木曜日
授業科目名		一般臨床医学	単位数		4
担当教員		持尾　聰一郎	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

柔整基礎医学で診断学の基礎を学んだが、一般臨床医学ではその知識に立脚して各疾患の症候を具体的に理解、把握することで治療の方向づけを行える能力を養い、今後の医療活動に役立つようにする。

【授業計画】

1	4/6	総論（柔整基礎医学の復習）	17	9/28	呼吸器疾患②
2	4/13	呼吸器疾患①	18	10/5	循環器疾患②
3	4/20	循環器疾患①	19	10/12	消化器疾患・肝胆膵疾患②
4	4/27	消化器疾患①	20	10/19	代謝疾患②
5	5/11	肝胆膵疾患①	21	10/26	内分泌疾患③
6	5/18	代謝疾患①	22	11/2	血液・造血器疾患②
7	5/25	内分泌疾患①	23	11/9	腎・尿路疾患②
8	6/1	内分泌疾患②	24	11/16	神経疾患③
9	6/8	血液・造血器疾患①	25	11/30	膠原病・その他②
10	6/15	腎・尿路疾患①	26	12/7	後期期末試験
11	6/22	神経疾患①	27	12/14	後期期末試験の解説
12	7/6	神経疾患②	28	1/11	感染症・その他②
13	7/13	感染症・膠原病・その他①	29	1/18	2年生の分の復習
14	7/20	復習	30	1/25	復習・卒業試験の解説
15	8/3	前期期末試験	31	2/1	総復習①
16	8/10	前期期末試験の解説	32	2/8	総復習②・確認テスト

学習上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用、無断退室などを禁止する。出席番号順に前列から着席する。		
評価方法	①必要な出席日数を満たしている。 ②前期・後期の試験で合格点に達している。 ③授業態度を加味する。		
教科書	「一般臨床医学　第2版」 全国柔道整復学校協会　医歯薬出版	参考書	「病気の成り立ちとからだⅡ」 医歯薬出版

16	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期　火曜日
授業科目名		外科学	単位数		2
担当教員		塚本　輝	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

1.外科学の基本知識の習得を目的に講義形式で授業を行う。
2.医療従事者として必要な全身の外科知識を学び考え方を身につける。
3.柔道整復師として医療現場に出た時に役立つ授業内容である.

【授業計画】

			1	9/26	ガイダンス、外科学とは(歴史)、 損傷(熱傷)
			2	10/3	顔面外傷
			3	10/10	頭頚部外傷
			4	10/17	胸腹部外傷
			5	10/24	出血と止血、ショック
			6	10/31	救急蘇生法
			7	11/14	炎症
			8	11/21	腫瘍(1)
			9	11/28	腫瘍(2)
			10	12/5	輸液、輸血(1)
			11	12/12	輸液、輸血(2)
			12	1/9	手術,滅菌と消毒
			13	1/16	麻酔
			14	1/23	移植
			15	1/30	後期期末試験
			16	2/6	試験解説

学習上の注意	復習に重点を置いて勉強すること。		
評価方法	学校規定の出席数に達していること。 成績評価は学期末テストで評価する。		
教科書	「外科学概論(最新版)」 全国柔道整復学校協会編(南江堂)	参考書	

17	区分	専門基礎分野	形式	講義	通年　火曜日
授業科目名		整形外科学	単位数		4
担当教員		塚本　輝	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

整形外科学の基礎と疾患を学ぶ。主に運動器の基礎知識、診断学、治療法などを学習する。

【授業計画】

1	4/11	整形外科学総論	17	9/26	治療法⑤
2	4/18	骨の基礎知識	18	10/3	スポーツ障害①
3	4/25	関節の基礎知識	19	10/10	スポーツ障害②
4	5/9	その他軟部組織の基礎知識	20	10/17	感染性疾患①
5	5/16	整形外科診察法①	21	10/24	感染性疾患②
6	5/23	整形外科診察法②	22	10/31	骨・軟部腫瘍①
7	5/30	整形外科診察法③	23	11/14	骨・軟部腫瘍②
8	6/6	検査法の進め方	24	11/21	骨・軟部腫瘍③
9	6/13	検査法①	25	11/28	非感染性疾患①
10	6/20	検査法②	26	12/5	後期期末試験
11	6/27	検査法③	27	12/12	試験の解説、非感染性疾患②
12	7/4	治療法①	28	1/9	非感染性疾患③
13	7/11	治療法②	29	1/16	全身性骨軟部疾患①
14	7/18	治療法③	30	1/23	全身性骨軟部疾患②
15	8/1	前期期末試験	31	1/30	神経疾患・筋疾患
16	8/8	試験の解説、治療法④	32	2/6	四肢循環障害・確認テスト

学習上の注意	復習に重点を置いて勉強すること。		
評価方法	期末試験で評価する。		
教科書	整形外科学　全国柔道整復学校協会編	参考書	

18	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期　金曜日 後期　月曜日
授業科目名		リハビリテーション医学	単位数		4
担当教員		小林　規彦・渡邉　学	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

柔道整復師として臨床現場で必要とされるリハビリテーション医学の基本的知識と心構えを会得することを目的とする。前期はリハビリテーション医学の考え方の基礎となるリハビリテーション概論を中心に講義を行った後、リハビリテーションを進めていく上で重要な評価についての理解を深めることを目標とする。後期はリハビリテーションを進めていく上で重要な各種のアプローチ法についての理解を深めることを目標とする。具体的には①リハビリテーションの理念を理解する。②従来の医療とリハビリテーション医療との違いを説明できる。③国際生活機能分類に基づいた障害の分類を説明できる。 ④リハビリテーションチームの構成を理解し各職種の役割を説明できる。⑤リハビリテーション医療の内容と流れを説明できる。⑥社会資源の活用など地域連携について説明できる。⑦リハビリテーション医学で用いられる診断法を理解する。⑧リハビリテーションを行う上で必要な評価について説明できる。⑨理学療法、作業療法及び言語療法について説明できる。⑩主な装具について説明できる、などである。

【授業計画】

1	4/7	リハビリテーションの理念	17	9/25	リハビリテーションの概念 国際障害分類（ICIDHとICF）
2	4/14	リハビリテーションの対象と障害者の実態	18	10/2	障害学　運動学と機能解剖学 上肢　脊椎
3	4/28	障害の階層とアプローチ	19	10/16	疾患別　治療学 上肢　脊柱
4	5/5	リハビリテーション評価学(1)	20	10/23	疾患別　評価と診断 上肢　脊柱
5	5/12	リハビリテーション評価学(2)	21	10/30	疾患別　理学療法 上肢　脊柱
6	5/19	リハビリテーション評価学(3)	22	11/6	障害学　運動学と機能解剖学 下肢
7	5/26	リハビリテーション障害学(1)	23	11/13	疾患別　治療学 下肢
8	6/2	リハビリテーション障害学(2)	24	11/20	疾患別　評価と診断 下肢
9	6/9	リハビリテーション障害学(3)	25	11/27	疾患別　理学療法 下肢
10	6/16	リハビリテーション治療学(1)	26	12/4	疾患別　評価と診断 脳卒中（Brunnstrom法，高次脳機能障害）
11	6/23	リハビリテーション治療学(2)	27	12/11	疾患別　理学療法 脳卒中（リハビリテーション，リスク管理）
12	6/30	リハビリテーション治療学(3)	28	12/18	疾患別　理学療法 小脳梗塞　難病
13	7/7	リハビリテーション治療学(4)	29	1/15	高齢者の理学療法 フレイル　認知症　介護保険
14	7/14	リハビリテーション医学の関連職種	30	1/22	補装具 装具（上肢，下肢，体幹）　義足　車椅子
15	7/28	前期期末試験	31	1/29	後期期末試験
16	8/4	総　括	32	2/5	柔整リハビリテーション医学のまとめ

学習上の注意	以下の事項の禁止。 飲食、携帯電話（メールを含む）の使用、授業内容に関係のない私語。		
評価方法	①出席状況 ②提出物 ③前・後期期末試験等により総合的に行う。		
教科書	リハビリテーション医学（改訂第4版） 全国柔道整復学校協会(監修)：南江堂	参考書	リハビリテーション医学・医療コアテキスト 公益社団法人日本リハビリテーション医学会(監修)：医学書院

19	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期　火曜日
授業科目名		臨床鑑別学	単位数		2
担当教員		塚本　輝	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

柔道整復師に必要な外傷や内科疾患との鑑別を中心に学習する。

【授業計画】

1	4/11	救急医学概論、画像診断			
2	4/18	救急時の評価			
3	4/25	症候学（心肺停止）			
4	5/9	症候学（意識障害）			
5	5/16	症候学（疼痛）			
6	5/23	BLS、止血			
7	5/30	外傷と応急処置			
8	6/6	症候学（中枢神経障害）			
9	6/13	症候学（呼吸器疾患、循環器疾患）			
10	6/20	症候学（代謝性疾患）			
11	6/27	症候学（腎疾患）			
12	7/4	外傷各論、中毒疾患			
13	7/11	安全管理、リスクマネジメント			
14	7/18	復習			
15	8/1	前期期末試験			
16	8/8	試験の解説			

学習上の注意	復習に重点を置いて勉強すること。		
評価方法	期末試験で評価する。		
教科書	医療の中の柔道整復　全国柔道整復学校協会編	参考書	

20	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期　火曜日
授業科目名		社会保険学	単位数		1
担当教員		菱沼　良平	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

わが国の社会保障制度の経緯や仕組み、現状を理解することを目的とする。また、柔道整復師が取り扱える受領委任払い制度や医療費の現状、介護保険制度、保険制度全体の概要を理解し説明できるようにする。

【授業計画】　（各1時間）

			1	9/26	社会保障①
			2	10/3	社会保障②
			3	10/10	社会保障制度①
			4	10/17	社会保障制度②
			5	10/24	医療保険制度①
			6	10/31	医療保険制度②
			7	11/14	医療保険制度③
			8	11/21	療養費とは①
			9	11/28	療養費とは②
			10	12/5	療養費制度
			11	12/12	柔道整復療養費
			12	1/9	療養費の算定
			13	1/16	療養費請求①
			14	1/23	療養費請求②
			15	1/30	後期期末試験
			16	2/6	後期末試験解説

学習上の注意	授業の復習は必ず行い、次授業に臨むこと。 私語、携帯電話など他学生の学習を妨げる行為は厳禁とする。		
評価方法	期末試験を主として評価を行う。 小テスト、授業態度等も考慮し総合的に評価を行う。		
教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 （医歯薬出版株式会社）	参考書	

21	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期　木曜日 後期　火曜日
授業科目名		公衆衛生学・衛生学	単位数		4
担当教員		木村　直人	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

公衆衛生学の目的は、人々の疾病を予防し、健康の保持・増進をはかり延命をもたらすことである。したがって、人々の健康を守り高める努力は、社会の中の個人と社会の組織的活動によるものが一体となって進められる。そこで公衆衛生学では、個人と社会組織を併せた健康づくりの基礎的知識について理解を深める。主な内容として、①生活環境衛生、②学校保健、③労働衛生、などである。
また衛生学では疾病や健康障害の発生要因がいかなる状況下において起こり得るか、さらにはそれらの予防に関する基礎的知識について理解を深める。主な内容として、①健康の概念、WHOについて、②感染症の予防（消毒も含む）、③疾病予防と健康管理、などである。

【授業計画】

1	4/6	衛生学の歴史（1）	17	9/26	環境衛生（空気1）
2	4/13	衛生学の歴史（2）	18	10/3	環境衛生（空気2）
3	4/20	世界保健機関（WHO）	19	10/10	環境衛生（水質1）
4	4/27	健康の概念　（1）	20	10/17	環境衛生（水質2）
5	5/11	健康の概念　（2）	21	10/24	環境衛生（水質3）
6	5/18	衛生統計（1）（死亡率について）	22	10/31	学校保健（1）
7	5/25	衛生統計（2）（出生について）	23	11/14	学校保健（2）
8	6/1	衛生統計（3）（疾病について）	24	11/21	母子保健（1）
9	6/8	衛生統計（4）（人口動態について）	25	11/28	精神保健（1）
10	6/15	感染症の予防（種類）	26	12/5	後期期末試験
11	6/22	感染症の予防（感染源）	27	12/12	後期期末試験答え合わせ
12	7/6	感染症の予防（治療と予防）	28	1/9	精神保健（2）
13	7/13	感染症の予防（免疫）	29	1/16	産業保健（1）
14	7/20	感染症の予防（殺菌・消毒）	30	1/23	産業保健（2）
15	8/3	前期期末試験	31	1/30	確認テスト①
16	8/10	前期期末試験答え合わせ	32	2/6	確認テスト②

学習上の注意	教科書以外にも、最新の資料を配る場合もある。特に人口動態や衛生統計に関しては年次の変化の推移を注意すること。		
評価方法	必要とされる出席日数を満たしていること。成績の評価は試験を行って評価する。必要に応じて追試験も行う。最終的な合否は卒業試験の成績を参考にされたい。		
教科書	「衛生学・公衆衛生学」社団法人全国柔道整復学校協会	参考書	「国民衛生の動向　2019」財団法人厚生統計協会

22	区分	専門基礎分野	形式	実技	通年　月曜日
授業科目名		柔道1	単位数		2
担当教員		立花　要・小枝　宰	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

1. 柔道の礼法を学び、実践する。
2. 柔道を実践することによって身体運動や機能について理解を深める。
3. 柔道の実践を通して身体を鍛え、体力を向上させる。
4. 柔道の受け身や安全な技を身につける。
5. 柔道整復師と柔道との関係について理解する。

【授業計画】

1	4/10	柔道の歴史、嘉納治五郎について	17	9/25	抑込技
2	4/17	柔道の基本理念	18	10/2	投技と抑技
3	4/24	柔道衣の着用、装飾品、身嗜み	19	10/16	試合における礼法
4	5/8	礼法	20	10/23	抑技3
5	5/15	柔道の基本動作	21	10/30	関節技
6	5/22	後方受身と側方受身	22	11/6	絞技
7	5/29	技を受けた際の受身	23	11/13	活法について
8	6/5	中間試験	24	11/20	約束稽古から乱取稽古(1)
9	6/12	前方回転受身	25	11/27	約束稽古から乱取稽古(2)
10	6/19	体さばきと投技(1)	26	12/4	約束稽古から乱取稽古(3)
11	6/26	体さばきと投技(2)	27	12/11	約束稽古から乱取稽古(4)
12	7/3	体さばきと投技(3)	28	12/18	固技総合稽古(1)
13	7/10	体さばきと投技(4)	29	1/15	固技総合稽古(2)
14	7/24	体さばきと投技(5)	30	1/22	総合練習(1)
15	7/31	投技の反復と約束稽古	31	1/29	総合練習(2)
16	8/7	前期期末試験	32	2/5	後期期末試験

学習上の注意	1. 怪我には十分注意すること。 2. 柔道衣を常に清潔に保ち、服装、手足の爪や頭髪などに配慮すること。 3. 礼節を重んじること。		
評価方法	出席は極めて重要であるので注意すること。遅刻・欠課・欠席、身嗜みは総合成績に加味する。 授業内に行う実技 試験、履修態度の成績等を考慮し評価点をつける。		
教科書		参考書	

23	区分	専門基礎分野	形式	実技	通年　金曜日
授業科目名		柔道2	単位数		2
担当教員		立花　要・小枝　宰	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

1年次に習得した柔道の基本動作等をより確実なものとすることを目標とする。また、柔道における立技、固技を乱取り練習の中で正しく行えるようにし、並行して投の形の修得を目指す。

【授業計画】

1	4/7	授業概要、1年次の動作確認	17	9/22	投の形1（基本の動作、礼法）
2	4/14	受身（後方受身、回転受身）	18	9/29	投の形2（浮落）
3	4/28	崩し、体捌き	19	10/6	投の形3（背負投）
4	5/5	立技1（手技）	20	10/20	投の形4（肩車）
5	5/12	立技2（腰技）	21	10/27	投の形5（浮腰）
6	5/19	立技3（足技）	22	11/10	投の形6（払腰）
7	5/26	立技4（大内刈、小内刈）	23	11/17	投の形7（釣込腰）
8	6/2	立技5（連続技）	24	11/24	投の形8（送足払）
9	6/9	立技6（崩しを用いての連続技）	25	12/1	投の形9（支釣込足）
10	6/16	固技1	26	12/8	投の形10（内股）
11	6/23	固技2	27	12/15	投の形11（確認練習）
12	6/30	固技3	28	1/12	総合練習1（投の形総合演習1）
13	7/7	総合練習1	29	1/19	総合練習2（投の形総合演習2）
14	7/14	総合練習2	30	1/26	総合練習3（乱取練習1）
15	7/28	総合練習3	31	2/2	総合練習4（乱取練習2）
16	8/4	前期期末試験	32	2/9	後期期末試験

学習上の注意	1. 怪我には十分注意すること。 2. 柔道衣を常に清潔に保ち、服装、手足の爪や頭髪などに配慮すること。 3. 礼節を重んじること。		
評価方法	出席は極めて重要であるので注意すること。遅刻・欠課・欠席、身嗜みは総合成績に加味する。 授業内に行う実技 試験、履修態度の成績等を考慮し評価点をつける。		
教科書		参考書	

24	区分	専門基礎分野	形式	講義	前期　水曜日
授業科目名		関係法規	単位数		2
担当教員		菱沼　良平	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

概要:第1回は日本の法体系を，第2～7回は柔道整復師法，第8～11回はその他の医療資格法と医療法を，第12回～14回は社会保障，国民医療費や倫理について学修します．これらを学修することで以下の目標を達成できます．
到達目標:医療の一端を担う柔道整復師として，日本の法体系を知り，正しい倫理観を身に付け，柔道整復師法および関連法を理解した上で柔道整復師として行動できる．
到達目標;・柔道整復師法および関連法の内容を理解できる．・医師法など，他の医療関連職種，医療法，福祉関連法，個人情報保護法について理解できる．・日本の社会保障と社会保険について理解できる．

【授業計画】

1	4/12	法の意義，柔道整復師と患者の権利			
2	4/19	柔道整復師法(総則，免許①)			
3	4/26	柔道整復師法(免許②)			
4	5/10	柔道整復師法(柔道整復師国家試験，業務)			
5	5/17	柔道整復師法(施術所，雑則)			
6	5/24	柔道整復師法(罰則，指定登録試験機関)			
7	5/31	柔道整復師法の総括			
8	6/7	医師法，歯科医師法，保健師助産師看護師法			
9	6/14	診療放射線技師法，その他の医療資格の法			
10	6/21	医療法①			
11	6/28	医療法②			
12	7/5	個人情報保護法，社会福祉関係法規			
13	7/12	社会保険関係法規			
14	7/19	国民医療費，療養費			
15	8/2	前期期末試験			
16	8/9	学修内容の重要事項の総括， 前期期末試験の解説			

学習上の注意	授業の復習は必ず行い、次授業に臨むこと。 私語、携帯電話など他学生の学習を妨げる行為は厳禁とする。		
評価方法	期末試験を主として評価を行う。 小テスト、授業態度等も考慮し総合的に評価を行う。		
教科書	関係法規2023年度版　医歯薬出版	参考書	

25	区分	専門基礎分野	形式	講義	後期　火曜日
授業科目名		医療概論	単位数		1
担当教員		菱沼　良平	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

この授業では医療従事者としての倫理観を学習すること目的とする。また、柔道整復師としての社会的責任を自覚し、職業倫理について理解し、説明できるようにする。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】　（各1時間）

			1	9/26	医療従事者の職業倫理
			2	10/3	従来の倫理観
			3	10/10	現代的倫理観
			4	10/17	患者への説明
			5	10/24	患者への説明 ケーススタディ1
			6	10/31	患者への説明 ケーススタディ2
			7	11/14	医療従事者の守秘義務①
			8	11/21	医療従事者の守秘義務②
			9	11/28	ヒポクラテスの誓い
			10	12/5	柔道整復師の社会的責任と対応①
			11	12/12	柔道整復師の社会的責任と対応②
			12	1/9	柔道整復師の社会的責任と対応③
			13	1/16	医療における情報と責任①
			14	1/23	医療における情報と責任②
			15	1/30	後期期末試験
			16	2/6	後期末試験解説

学習上の注意	授業の復習は必ず行い、次授業に臨むこと。 私語、携帯電話など他学生の学習を妨げる行為は厳禁とする。		
評価方法	期末試験を主として評価を行う。 小テスト、授業態度等も考慮し総合的に評価を行う。		
教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 （医歯薬出版株式会社）	参考書	

26	区分	専門分野	形式	講義	前期　木曜日 後期　水曜日
授業科目名		整復総論1	単位数		4
担当教員		立花　要・熊谷　将史	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

整復総論1では骨折総論について講義する。2年次以降の骨折各論に応用できる基礎知識の習得を目的とする。
骨の構造と機能について理解を深めたうえで骨折の分類・症状・合併症・小児と高齢者の骨折の違い・治癒過程・疲労骨折の基礎・定型的骨折・整復法・固定法について講義を進める。
具体的には骨折の分類や症状、年齢別の特徴的な骨折の違い、治癒過程などを理解し、説明できるようにする。
1年間の講義終了時点で骨折とは何かということの理解を目標とする。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/6	骨の構造と機能1	17	9/27	小児の骨折1
2	4/13	骨の構造と機能2	18	10/4	小児の骨折2
3	4/20	骨の構造と機能3	19	10/11	高齢者の骨折1
4	4/27	骨折の定義、骨折の分類1	20	10/18	高齢者の骨折2
5	5/11	骨折の分類2	21	10/25	骨折の治癒過程1
6	5/18	骨折の分類3	22	11/8	骨折の治癒過程2
7	5/25	骨折の一般外傷症状	23	11/15	骨折の予後・骨折の治癒に影響を与える因子
8	6/1	中間試験	24	11/22	疲労骨折1
9	6/8	骨折の固有症状	25	11/29	疲労骨折2
10	6/15	骨折の全身症状	26	12/6	定型的骨折
11	6/22	骨折の合併症	27	12/13	骨折の整復1
12	7/6	骨折の合併症	28	1/10	骨折の整復2
13	7/13	骨折の合併症	29	1/17	骨折の整復3
14	7/20	骨折の合併症	30	1/24	骨折の固定法
15	8/3	前期期末試験	31	1/31	後期期末試験
16	8/10	試験解説・骨折総論まとめ	32	2/7	試験解説・骨折総論まとめ

学習上の注意	板書以外に口頭で説明することも試験に出題する場合もあるのでメモをとること。 授業中の飲食、私語、携帯電話・スマートフォン(指示のある時は可)の使用、無断退出は厳禁とする。 授業に積極的に参加すること。		
評価方法	期末試験、臨時試験、提出物、授業態度を評価要素として総合的に評価する。 授業態度が悪いと担当教員が判断した場合は、減点の対象とする。		
教科書	『柔道整復学・理論編 第7版』 (社)全国柔道整復学校協会編	参考書	

27	区分	専門分野	形式	講義	通年　金曜日
授業科目名		整復総論2	単位数		4
担当教員		菱沼　良平	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

本授業では、関節の損傷(捻挫・脱臼)、筋の損傷、腱の損傷、末梢神経の損傷、血管系・リンパ系の損傷、皮膚の損傷における総論を学習する。
各損傷の基礎知識を学び、各疾患の理解につながる知識の構築を目的とする。
脱臼の総論では、脱臼・捻挫、一般外傷症状・固有症状、反復性脱臼・習慣性脱臼・随意性脱臼において正確に区別し違いを述べることができる。脱臼の合併症、脱臼徒手整復の原理を理解し説明することができるよう学習する。
筋の損傷、腱の損傷、末梢神経の損傷、血管系・リンパ系の損傷、皮膚の損傷では、分類、症状、治癒機序を理解し説明できるよう学習する。
怪我を扱う職業の土台となる知識であるため、しっかりと柔道整復師の礎を築いていく。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/7	人体に加わる力	17	9/22	関節の脱臼⑤
2	4/14	損傷時に加わる力	18	9/29	関節の脱臼⑥
3	4/28	痛みの基礎①	19	10/6	関節の捻挫①
4	5/5	痛みの基礎②	20	10/20	関節の捻挫②
5	5/12	末梢神経の損傷①	21	10/27	関節の捻挫③
6	5/19	末梢神経の損傷②	22	11/10	靭帯の損傷①
7	5/26	末梢神経の損傷③	23	11/17	靭帯の損傷②
8	6/2	中間試験	24	11/24	靭帯の損傷③
9	6/9	関節の構造と機能①	25	12/1	筋の損傷①
10	6/16	関節の構造と機能②	26	12/8	筋の損傷②
11	6/23	関節の脱臼①	27	12/15	筋の損傷③
12	6/30	関節の脱臼②	28	1/12	腱の損傷①
13	7/7	関節の脱臼③	29	1/19	腱の損傷②
14	7/14	関節の脱臼④	30	1/26	腱の損傷③
15	7/28	前期期末試験	31	2/2	後期期末試験
16	8/4	前期期末試験解説	32	2/9	後期期末試験解説

学習上の注意	学習項目の解剖学や運動学の内容の復習を行い、授業に臨むこと。 授業の復習は必ず行い、次授業に臨むこと。 私語、携帯電話など他学生の学習を妨げる行為は厳禁とする。		
評価方法	前・後期末試験を基準に評価を行う。 授業態度等も考慮して評価を行う。		
教科書	『柔道整復学理論編』改訂第7版(南江堂)	参考書	

28	区分	専門分野	形式	講義	前期　木曜日 後期　水曜日
授業科目名		整復運動学	単位数		4
担当教員		又吉　啓太	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

柔道整復師の運動器の構造と機能”に関する理解をもとに、運動学の概念、力学の身体運動への応用、運動生理、身体の発育・発達、運動学習など、人の運動行動を幅広く学習する。　＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/6	骨の構造と機能	17	9/27	股関節の運動② 股関節の筋
2	4/13	関節の構造と機能	18	10/4	膝関節の運動①骨・関節・運動1
3	4/20	骨格筋の構造と機能	19	10/11	膝関節の運動②骨・関節・運動2
4	4/27	上肢帯の運動① 骨・関節・鎖骨・肩甲骨の運動	20	10/18	膝関節の運動③膝関節の筋1
5	5/11	上肢帯の運動② 上肢帯の筋	21	10/25	足関節と足部の運動①骨・関節・運動
6	5/18	肩関節の運動① 骨・関節・運動	22	11/8	足関節と足部の運動②足の筋1
7	5/25	肩関節の運動② 肩関節の筋	23	11/15	足関節と足部の運動③足の筋2
8	6/1	中間試験	24	11/22	体幹と脊柱の運動①骨・関節・運動1
9	6/8	肘関節と前腕の運動① 骨・関節・運動	25	11/29	体幹と脊柱の運動②骨・関節・運動2
10	6/15	肘関節と前腕の運動② 肘関節の筋	26	12/6	頚椎・胸椎の運動①骨・関節・運動
11	6/22	手関節と指の運動①骨・関節・運動	27	12/13	頚椎・胸椎の運動②頸部・胸郭の筋
12	7/6	手関節と指の運動② 手関節・指の筋1	28	1/10	腰椎・仙椎の運動①骨・関節・運動1
13	7/13	手関節と指の運動③ 手関節・指の筋2	29	1/17	腰椎・仙椎の運動②骨・関節・運動2
14	7/20	手関節と指の運動④ 手関節・指の筋3	30	1/24	顔面・頭部の運動①骨・関節・頭部・顔面の筋
15	8/3	前期期末試験	31	1/31	後期期末試験
16	8/10	股関節の運動① 骨・関節・運動	32	2/7	試験解説・総復習

学習上の注意	・授業中の私語は厳禁とする。 ・積極的な姿勢で授業に臨むこと。 ・覚えることが多いので必ず復習し次回に臨むこと
評価方法	前期末試験と後期末試験の平均値を総合評価とする。

教科書	運動学（医歯薬出版）	参考書	

29	区分	専門分野	形式	講義	後期　水曜日
授業科目名		整復外科学	単位数		2
担当教員		蓮沼　鉄也	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

後期末試験までは、1年時に習った外科学概論の復習を行う。国家試験出題項目を中心に、解剖学や生理学の知識を再確認しながら行うことにより、暗記ではなく、理解が深まるようにすることを目指す。後期末試験後は国家試験対策を中心に講義を展開したいと考えている。

【授業計画】

			1	9/27	中枢神経系の解剖生理
			2	10/4	頭部外傷
			3	10/11	頭蓋内出血
			4	10/18	脳血管障害
			5	10/25	視床下部と下垂体（解剖生理）
			6	11/8	脳腫瘍
			7	11/15	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモンについて
			8	11/22	甲状腺疾患（バセドウ氏病）
			9	11/29	甲状腺疾患（甲状腺癌）
			10	12/6	後期末試験
			11	12/13	胸壁・肺疾患（肺癌、気胸等）
			12	1/10	心疾患1
			13	1/17	心疾患2
			14	1/24	動脈疾患
			15	1/31	高安病、乳腺疾患
			16	2/7	乳癌・確認テスト

学習上の注意	基本的に解剖学的知識は既に習得しているものとして講義を展開するので、理解できていない学生は、必ず予め予習して臨むこと。授業中の飲食（当然ガムも）、私語、携帯電話（メールを含む）の使用は厳禁とする。 積極的な姿勢で授業に臨むこと。無気力な学生に対しては退室を指示することもある。		
評価方法	定期試験の結果で評価する。規定の出席日数をクリアしていない学生に対しては受験資格を与えない。 尚、試験問題は、①板書、②口頭での説明、③配布プリント、の内容の中から出題する。		
教科書	「外科学概論」全国柔道整復学校協会編（南江堂）	参考書	

30	区分	専門分野	形式	講義	前期　金曜日 後期　月曜日
授業科目名		整復基礎医学	単位数		4
担当教員		園部　英貴	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

医学において学ぶ診断学の基本である理学的所見の聴取方法（問診、視診、打診、聴診、そして触診）と生命徴候(バイタルサイン）について説明する。これらから得られた情報を基に、臨床症候を系統的かつ論理的に把握して、患者の緊急度、重症度の判断と身体的異常を的確に実践的に解決する能力を身につける。授業で得られる知識が将来の柔道整復師としの仕事に直結し、優秀な施術者になるための基盤となることを目指す。
＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/7	イントロダクション/診察概論	17	9/25	聴診（1）
2	4/14	診察各論	18	10/2	聴診（2）
3	4/28	医療面接　B.視診　(1)	19	10/16	触診（1）
4	5/5	視診(2)	20	10/23	触診（2）
5	5/12	視診(3)	21	10/30	触診（3）
6	5/19	視診(4)	22	11/6	生命徴候（1）
7	5/26	視診(5)	23	11/13	生命徴候（2）
8	6/2	視診(6)	24	11/20	生命徴候（3）
9	6/9	視診(7)	25	11/27	生命徴候（4）
10	6/16	視診(8)	26	12/4	生命徴候（5）
11	6/23	視診(9)	27	12/11	代表的な臨床症状（1）
12	6/30	視診(10)	28	12/18	代表的な臨床症状（2）
13	7/7	視診(11)	29	1/15	代表的な臨床症状（3）
14	7/14	視診(12)	30	1/22	代表的な臨床症状（4）
15	7/28	前期期末試験	31	1/29	後期期末試験
16	8/4	打診	32	2/5	代表的な臨床症状（5）

学習上の注意	教科書は必ず使用する為毎回持参すること。		
評価方法	前期末試験、後期末試験を主とし、臨時試験、レポート提出、出席状況、授業態度などから評価する。		
教科書	「一般臨床医学」全国柔道整復学校協会　監修　医歯薬出版を使用する。必要に応じて各分野でレジュメを配付する。	参考書	

31	区分	専門分野	形式	講義	前期　水曜日
授業科目名		整復整形外科	単位数		2
担当教員		蓮沼　鉄也	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

「整形外科学」(全国柔道整復学校協会)の内容から、他の教科で扱っていない下記の項目をピックアップして講義を行う。柔道整復師の業務範囲外の疾患も含まれるが、その症状から整骨院を受診する可能性があるため、しっかりと鑑別することが出来るように、知っておくべき知識を簡潔に教授することを目標として、進行する。その上で、実体験も交えて話をすることで、医接連携の大切さを再認識してもらいたい。

【授業計画】

1	4/12	骨端症①			
2	4/19	骨端症②			
3	4/26	四肢循環障害①			
4	5/10	四肢循環障害② 上肢の絞扼性神経障害　総論			
5	5/17	上肢の絞扼性神経障害　各論①			
6	5/24	上肢の絞扼性神経障害　各論②			
7	5/31	下肢の絞扼性神経障害			
8	6/7	下腿コンパートメント症候群			
9	6/14	脳性麻痺、ポリオ、脊髄空洞症、脊髄癆			
10	6/21	ALS、神経性進行性筋萎縮症、平山病、 進行性筋ジストロフィー			
11	6/28	変形性頚椎症、斜頸(環軸関節回旋位固定)			
12	7/5	黄色靭帯骨化症、シュモール結節、 強直性脊椎炎			
13	7/12	胸郭形態異常、ティーチェ病			
14	7/19	腰椎椎間板ヘルニア			
15	8/2	前期期末試験			
16	8/9	前期の総括			

学習上の注意	基本的に解剖学的知識は既に習得しているものとして講義を展開するので、理解できていない学生は、必ず予め予習して臨むこと。授業中の飲食(当然ガムも)、私語、携帯電話(メールを含む)の使用は厳禁とする。 積極的な姿勢で授業に臨むこと。無気力な学生に対しては退室を指示することもある。		
評価方法	定期試験の結果で評価する。 規定の出席日数をクリアしていない学生に対しては受験資格を与えない。 尚、試験問題は、①板書、②口頭での説明、③配布プリント、の内容の中から出題する。		
教科書	「整形外科学」「柔道整復学　理論編」 「柔道整復学　実技編」全国柔道整復学校協会編(南江堂)	参考書	

33	区分	専門分野	形式	講義	前期　金曜日
授業科目名		整復リハビリテーション医学	単位数		2
担当教員		小林　規彦	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

柔道整復師としての臨床現場で必要とされるリハビリテーション医学の基本的知識と心構えを会得することを目的とする。リハビリテーション医学の対象となる主要な疾患について理解し、疾患によりもたらされる各種の障害及びそのアプローチ法についての理解を深めることを目標とする。また、試験・演習とその解説を通して障害についての理解度を確認する。具体的には、①各種疾患による障害とそのリハビリテーションの特徴を説明できる。②各種合併症・リスクとその予防・治療法を理解する。③リハビリテーションにおける保健・福祉との連携について理解する、などである。

【授業計画】

1	4/7	脳血管障害・頭部外傷(1)			
2	4/14	脳血管障害・頭部外傷(2)			
3	4/28	脊髄損傷			
4	5/5	神経筋疾患(1)			
5	5/12	神経筋疾患(2)			
6	5/19	切断			
7	5/26	小児疾患			
8	6/2	リウマチ性疾患			
9	6/9	循環器疾患			
10	6/16	呼吸器疾患・腎疾患			
11	6/23	内分泌代謝性疾患			
12	6/30	集中治療室			
13	7/7	摂食嚥下障害と栄養管理			
14	7/14	がん			
15	7/28	前期期末試験			
16	8/4	総　括			

学習上の注意	以下の事項の禁止。 飲食、携帯電話(メールを含む)の使用、授業内容に関係のない私語。		
評価方法	①出席状況 ②提出物 ③前・後期期末試験　等により総合的に行う。		
教科書	リハビリテーション医学・医療コアテキスト 公益社団法人日本リハビリテーション医学会(監修)：医学書院	参考書	目でみるリハビリテーション医学　東京大学出版会

32	区分	専門分野	形式	講義	前期　月曜日
授業科目名		整復病理学	単位数		2
担当教員		甘利　雅雄	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

病理学は、疾病に陥った人体の構造異常と代謝異常を検討し疾病の発症原因さらには治療効果や予後といった疾病の本態を研究する学問である。3年生では比較的身近に遭遇することの多い疾病について学習するが、その本態を理解する為には病理学を含めた基礎医学から臨床医学にわたる広範囲な医学の知識が要求される。しかしながら学生諸君の中には病理学を習得するうえで大切なこの知識を苦手とする方々がおられよう。その人たちこそ級友達と行うグループ学習をお奨めしたい。また、国試に向けて大切なことは、これまで病理学で学んできた病理学用語や疾病の定義を再度復習する学習方法が有効である。そこで本講義の後半にはその一助となるよう2年生から学んできた病理学の要点を国試形式にまとめ、質疑、応答を交えた授業を行い、病理学で云う疾病の本態が再認識できるよう努めたい。

1	4/10	アレルギー1：Ⅰ～Ⅱ型反応。			
2	4/17	アレルギー2：Ⅲ型～Ⅴ型反応。			
3	4/24	自己免疫疾患とその要点。			
4	5/8	移植と再生医学。			
5	5/15	腫瘍1：①自律的増殖とその制御機構。 ②命名方法と分類。			
6	5/22	腫瘍2：①発生母地組織と拡がり方。 ②肉眼的及び組織学的構造。			
7	5/29	腫瘍3：①腫瘍マーカー。 ②進展様式と病期分類。			
8	6/5	腫瘍4：①発生論。 ②主要な悪性腫瘍の要点。			
9	6/12	先天性疾患1：①核酸と非必須アミノ酸の合成。 ②遺伝子と染色体。			
10	6/19	先天性疾患2：多因子性遺伝と単因子性遺伝の疾患。			
11	6/26	先天性疾患3：①染色体異常の疾患。 ②胎芽期と奇形の関係。			
12	7/3	免疫から奇形までの復習と練習問題を行い、 その後に解答と解説を行う。			
13	7/10	循環障害から炎症までの要点を述べ、 その後に小テストを行う。			
14	7/24	病因論から進行性病変迄の練習問題を行い、 その後に質疑応答を行う。			
15	7/31	前期期末試験：病因論から先天性疾患迄の全範囲。			
16	8/7	期末試験問題の解答と解説。			

学習上の注意	配布した資料やは、バインダーなどに閉じるなどして整理してください。 資料と教科書は、授業ごとに必ず持参してください。 授業中の飲水や携帯の操作は謹んで下さい。		
評価方法	期末試験の結果のみで判定します。		
教科書	病理学概論（改訂第3版、全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社）	参考書	

34	区分	専門分野	形式	講義	前期　月曜日
授業科目名		整復施術学	単位数		2
担当教員		小枝　宰	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

臨床の場で必要となる物理療法や評価法、後療法の基本的な知識を習得することを目標とする。また、体表解剖を理解するため基本の筋、骨格系を学び、触診の技術も身に付けるようにする。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/10	物理療法の理論			
2	4/17	体表触診①			
3	4/24	体表触診②			
4	5/8	体表触診③			
5	5/15	電気療法①			
6	5/22	電気療法②			
7	5/29	寒冷療法①			
8	6/5	寒冷療法②			
9	6/12	温熱療法①			
10	6/19	温熱療法②			
11	6/26	光線療法①			
12	7/3	光線療法②			
13	7/10	牽引療法①			
14	7/24	牽引療法②			
15	7/31	後期期末試験			
16	8/7	後期末試験解説			

学習上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用は厳禁とする。実技の際は白衣を着用すること。		
評価方法	期末試験によって評価する。出席条件を満たすこと。		
教科書	柔道整復学　理論編／柔道整復学　実技編　（南江堂）	参考書	

35	区分	専門分野	形式	講義	後期　月曜日
授業科目名		整復各論1	単位数		2
担当教員		小枝　宰	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

本授業では、上肢の脱臼について、肩関節と肘関節の脱臼を中心に学習する。
肩関節と肘関節の脱臼の発生機序や年齢特性、症状、損傷関節構成体、整復法等について学んでいき、前期に学習した脱臼総論の知識を深めていく。また、脱臼に関与する解剖学的な筋や関節の構造も学習する。
それら脱臼の発生機序、年齢特性、症状、整復法、治癒過程について理解し説明できるようにする。
柔道整復師として10年以上の実務経験を生かして学生に臨床知識を身に付けさせる。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

			1	9/25	肩関節の解剖
			2	10/2	肩関節の前方脱臼
			3	10/16	肩関節の後方脱臼
			4	10/23	肩関節の下方脱臼
			5	10/30	肩関節の上方脱臼
			6	11/6	反復性肩関節脱臼
			7	11/13	肘関節の解剖
			8	11/20	肘関節の後方脱臼
			9	11/27	肘関節の前方脱臼
			10	12/4	肘関節の外側脱臼
			11	12/11	肘関節の内側脱臼
			12	12/18	肘関節の分散（開排）脱臼
			13	1/15	橈骨の単独脱臼
			14	1/22	肘内障
			15	1/29	後期期末試験
			16	2/5	後期期末試験の解答、解説

学習上の注意	学習項目の解剖学や運動学の内容を復習を行い、授業に臨むこと。 授業の復習は必ず行い、次授業に臨むこと。 私語、携帯電話など他学生の学習を妨げる行為は厳禁とする。		
評価方法	期末試験によって評価する。出席条件を満たすこと。		
教科書	『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会 監修（南江堂）	参考書	

36	区分	専門分野	形式	講義	通年　火曜日
授業科目名		整復各論2	単位数		4
担当教員		又吉　啓太	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

肋骨、上肢帯～指骨までの骨折を学習する。 臨床上多く遭遇する外傷であり、正確な解剖学的特徴とともに、鑑別、転位、神経損傷など理論的な知識を習得することを目標とする。臨床症例と画像を紹介しながら理解を深め現場で行かせる知識とする。
柔道整復師として10年以上の実務経験を生かして学生に臨床知識を身に付けさせる。 ＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/11	指骨骨折1	17	9/26	上腕骨遠位端部骨折1
2	4/18	指骨骨折2	18	10/3	上腕骨遠位端部骨折2
3	4/25	中手骨骨折1	19	10/10	上腕骨骨幹部骨折1
4	5/9	中手骨骨折2	20	10/17	上腕骨骨幹部骨折2
5	5/16	手根骨骨折	21	10/24	上腕骨結節部骨折
6	5/23	前腕骨遠位端部骨折1	22	10/31	上腕骨近位端骨端線離開
7	5/30	前腕骨遠位端部骨折2	23	11/14	上腕骨外科頸骨折1
8	6/6	前腕骨遠位端部骨折3	24	11/21	上腕骨外科頸骨折2
9	6/13	前腕骨骨幹部骨折1	25	11/28	上腕骨骨頭・解剖頸骨折
10	6/20	前腕骨骨幹部骨折2	26	12/5	肩甲骨骨折
11	6/27	前腕骨骨幹部骨折3	27	12/12	鎖骨骨折1
12	7/4	前腕近位端部骨折1	28	1/9	鎖骨骨折2
13	7/11	前腕近位端部骨折2	29	1/16	鎖骨骨折3
14	7/18	前腕近位端部骨折3	30	1/23	肋骨骨折
15	8/1	前期期末試験	31	1/30	後期期末試験
16	8/8	前期末試験解説	32	2/6	後期末試験解説

学習上の注意	授業中の私語厳禁とする。積極的な姿勢で授業に臨むこと。		
評価方法	前期評価、後期評価の平均値を総合評価とする。		
教科書	柔道整復学　理論編／柔道整復学　実技編　（南江堂）	参考書	

37	区分	専門分野	形式	講義	前期　月曜日
授業科目名		整復各論3	単位数		2
担当教員		立花　要	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

上肢の脱臼について理解し、知識の修得を目標とする。柔道整復師として重要な分野である為、各部位の機能解剖を理解した上で、その発生機序や分類、整復法、治療法など、より臨床に基づいた授業となるように進めていく。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/10	授業概要の説明、肩周囲の関節について			
2	4/17	胸鎖関節脱臼			
3	4/24	肩鎖関節脱臼			
4	5/8	肩関節脱臼1			
5	5/15	肩関節脱臼2			
6	5/22	前腕両骨脱臼1			
7	5/29	前腕両骨脱臼2			
8	6/5	肘内障			
9	6/12	手関節部の脱臼1			
10	6/19	手関節部の脱臼2			
11	6/26	手指の脱臼1			
12	7/3	手指の脱臼2			
13	7/10	手指の脱臼3			
14	7/24	試験の説明、まとめ			
15	7/31	後期期末試験			
16	8/7	試験の解説			

学習上の注意	板書以外に口頭で説明することも試験に出題する場合もあるのでメモをとること。 授業中の飲食、私語、PC、携帯電話・スマートフォン(許可のある場合は可)の使用、無断退出は厳禁とする。 授業に積極的に参加すること。実技の際は白衣を着用すること。		
評価方法	出席条件を満たすこと。臨時試験、提出物、授業態度を評価要素として総合的に評価する。 授業態度が悪いと担当教員が判断した場合は、減点の対象とする。		
教科書	「柔道整復学　理論編」「柔道整復学　実技編」 全国柔道整復学校協会編　（南江堂）	参考書	

38	区分	専門分野	形式	講義	前期　月曜日 後期　木曜日
授業科目名		整復各論4	単位数		4
担当教員		菱沼　良平	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

上肢・頸部の軟部組織損傷について学習を行う。
解剖学・運動学をもとに発生機序・分類・症状について理解する。
上肢・頸部の軟部組織損傷は臨床で多く遭遇する外傷であり、将来生かすことのできる技術と知識を習得していく。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/10	肩関節部の筋、腱損傷	17	9/28	三角線維軟骨複合体損傷
2	4/17	肩関節部のスポーツ損傷	18	10/5	ド・ケルバン病
3	4/24	肩関節部の不安定症	19	10/12	手関節部の末梢神経障害
4	5/8	肩関節部の末梢神経障害	20	10/19	キーンベック病
5	5/15	肩関節部のその他の疾患	21	10/26	マーデルング変形
6	5/22	上腕部の橈骨神経損傷	22	11/2	手部、指部の腱、靭帯損傷
7	5/29	上腕部の尺骨神経損傷	23	11/9	その他の手指部の変形疾患および変形
8	6/5	肘関節部の靭帯損傷	24	11/16	頭部、顔面部打撲
9	6/12	肘関節部の野球肘	25	11/30	顎関節症
10	6/19	肘関節部のテニス肘	26	12/7	頸部　むちうち損傷　頚椎症　斜頸
11	6/26	肘関節部のその他の疾患	27	12/14	頸部　外傷性腕神経叢麻痺　分娩麻痺
12	7/3	前腕コンパートメント症候群	28	1/11	頸部　副神経麻痺　長胸神経麻痺 胸郭出口症候群
13	7/10	前腕部の腱交叉症候群	29	1/18	頸部　ヘルニア　後縦靭帯骨化症 リウマチ性脊椎炎
14	7/24	前腕部の末梢神経障害	30	1/25	総復習
15	7/31	前期期末試験	31	2/1	後期期末試験
16	8/7	前期期末試験解説	32	2/8	後期期末試験解説

学習上の注意	学習項目の解剖学や運動学の内容を復習を行い、授業に臨むこと。 授業の復習は必ず行い、次授業に臨むこと。 私語、携帯電話など他学生の学習を妨げる行為は厳禁とする。		
評価方法	期末試験を主として評価を行う。 小テスト、授業態度等も考慮し総合的に評価を行う。		
教科書	『柔道整復学理論編』改訂第7版(南江堂)	参考書	

39	区分	専門分野	形式	講義	前期　木曜日 後期　金曜日
授業科目名		整復各論5	単位数		4
担当教員		小枝　宰	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

下肢、頭部、顔面、顎関節の骨折・脱臼を学習する。臨床上、特に遭遇する可能性が高い顎関節脱臼、足部骨折について特徴的な症状を把握し、処置の方法や固定法、後療法など実践で役立つ知識を習得することを目標とする。
柔道整復師として10年以上の実務経験を生かして学生に臨床知識を身に付けさせる。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/6	授業の概要説明、下肢・頭部・顔面・体幹の関節について	17	9/22	足根骨骨折①
2	4/13	下肢解剖の復習	18	9/29	足根骨骨折②
3	4/20	骨盤骨骨折①	19	10/6	足根骨骨折③
4	4/27	骨盤骨骨折②	20	10/20	中足骨骨折①
5	5/11	骨盤骨骨折③	21	10/27	中足骨骨折②
6	5/18	大腿骨骨折①	22	11/10	中足骨骨折③
7	5/25	大腿骨骨折②	23	11/17	足根部脱臼
8	6/1	大腿骨骨折③	24	11/24	頭部の骨折①
9	6/8	股関節脱臼①	25	12/1	頭部の骨折②
10	6/15	股関節脱臼②	26	12/8	顔面の骨折①
11	6/22	膝蓋骨骨折/分裂膝蓋骨	27	12/15	顔面の骨折②
12	7/6	膝蓋骨脱臼/膝関節脱臼	28	1/12	顎関節脱臼①
13	7/13	下腿骨骨折①	29	1/19	顎関節脱臼②
14	7/20	下腿骨骨折②	30	1/26	体幹の骨折・脱臼
15	8/3	前期期末試験	31	2/2	後期期末試験
16	8/10	前期末試験解説	32	2/9	後期期末試験解説

学習上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用は厳禁とする。実技の際は白衣を着用すること。		
評価方法	期末試験によって評価する。出席条件を満たすこと。		
教科書	柔道整復学　理論編／柔道整復学　実技編（南江堂）	参考書	

40	区分	専門分野	形式	講義	後期　火曜日
授業科目名		整復各論6	単位数		2
担当教員		又吉　啓太	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

顎関節症および下肢(股関節から膝関節まで)の軟部組織損傷を講義する。半期という短い期間で多岐に渡る疾患を講義することになるので、柔道整復師として臨床上重要な疾患を中心に取り上げ、整形外科と重複する内容については省略して行う。現場に出た時に役に立つ知識を習得する。　＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

			1	9/26	授業概要、下肢機能解剖
			2	10/3	鼡径部痛症候群
			3	10/10	股関節関節唇損傷、ばね股
			4	10/17	梨状筋症候群
			5	10/24	大腿部打僕、大腿部肉離れ
			6	10/31	膝関節機能解剖
			7	11/14	半月板損傷
			8	11/21	十字靭帯損傷
			9	11/28	膝側副靭帯損傷
			10	12/5	タナ障害、変形性膝関節症
			11	12/12	腸頸靭帯炎、鵞足炎
			12	1/9	膝関節テスト法まとめ
			13	1/16	膝関節テスト法まとめ2
			14	1/23	分離症、すべり症
			15	1/30	後期期末試験
			16	2/6	急性腰痛

学習上の注意	板書以外に口頭で説明することも試験に出題する場合もあるのでメモをとること。 授業中の飲食、私語、携帯電話、スマートフォン(メールを含む)の使用、無断退出は厳禁とする。 授業態度の悪い学生は退出してもらう。		
評価方法	期末試験、授業態度 を総合的に評価する。		
教科書	『柔道整復学理論編』『柔道整復学実技編』 （社）全国柔道整復学校協会編	参考書	

41	区分	専門分野	形式	講義	通年　水曜日
授業科目名		整復各論7	単位数		4
担当教員		蓮沼鐵也・又吉啓太	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

下腿～足部・足趾の軟部組織損傷の講義を担当する。臨床で遭遇する機会も多い疾患がほとんどであり、触診のコツ、他疾患との鑑別のポイント、具体的な治療方法、保存療法の限界など、実際の臨床の現場で、将来直面するであろう疑問に対処できるような知識・技術を習得することを、この講義のねらいとしたい。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/12	下肢のアライメントについて	17	9/27	膝関節・下腿部の外傷　診察・検査・画像診断
2	4/19	アキレス腱断裂	18	10/4	膝関節・下腿部の外傷　診察・検査・画像診断2
3	4/26	下腿三頭筋の肉ばなれ	19	10/11	膝関節・下腿部の外傷　症状・予後・鑑別診断
4	5/10	アキレス腱腱炎・周囲炎 アキレス腱部滑液包炎	20	10/18	膝関節・下腿部の外傷　症状・予後・鑑別診断2
5	5/17	シンスプリント	21	10/25	膝関節・下腿部の外傷　治療・理学療法・固定法
6	5/24	足関節捻挫	22	11/8	足関節・足部・足趾の外傷　診察・検査・病態
7	5/31	足関節捻挫の後遺症 （衝突性外骨腫、足根洞症候群）	23	11/15	足関節・足部・足趾の外傷　症状・予後・治療法
8	6/7	その他の足関節・足部の捻挫	24	11/22	足関節・足部・足趾の外傷　理学療法・固定法
9	6/14	外傷性腓骨筋腱脱臼	25	11/29	股関節部の軟部組織損傷　復習
10	6/21	足部の過剰骨障害　（有痛性外脛骨、三角骨障害）	26	12/6	後期期末試験
11	6/28	足部の変形（扁平足、外反母趾など）	27	12/13	大腿部の軟部組織損傷　まとめ・復習
12	7/5	足部の絞扼性神経障害（足根管症候群、前足根管症候群、Morton病など）	28	1/10	膝関節の軟部組織損傷　まとめ・復習
13	7/12	足部の骨端症 （ケーラー病、フライベルグ病、セーバー病、イゼリン病）	29	1/17	膝関節の軟部組織損傷　まとめ・復習2
14	7/19	足底腱膜炎、疼痛性踵パッド	30	1/24	膝関節の軟部組織損傷　まとめ・復習3
15	8/2	前期期末試験	31	1/31	下腿部・足関節の軟部組織損傷　まとめ・復習
16	8/9	母趾種子骨障害	32	2/7	下肢のスポーツ障害まとめ・確認テスト

学習上の注意	基本的に解剖学的知識は既に習得しているものとして講義を展開するので、理解できていない学生は、必ず予め予習して臨むこと。授業中の飲食（当然ガムも）、私語、携帯電話（メールを含む）の使用は厳禁とする。 積極的な姿勢で授業に臨むこと。無気力な学生に対しては退室を指示することもある。		
評価方法	定期試験の結果で評価する。 規定の出席日数をクリアしていない学生に対しては受験資格を与えない。 尚、試験問題は、①板書、②口頭での説明、③配布プリント、の内容の中から出題する.		
教科書	「柔道整復学　理論編」「柔道整復学　実技編」 全国柔道整復学校協会編（南江堂）	参考書	

42	区分	専門分野	形式	講義	後期　月曜日
授業科目名		整復各論8	単位数		2
担当教員		立花　要	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

現在医療において、X線写真やCT、MRIの画像診断は必要不可欠となった。柔道整復師に特に重要である骨・関節領域の画像読影の基礎から実践までを講義する。基本的な画像の撮像論と画像解剖学、症例をもとに読影の実際を学ぶ。最終的に系統的な画像の撮影方法の骨子が習得できればよい。それに臨床解剖学や生理学などの知識をいかに照らし合わせられるかがポイントであるが、実際の画像読影にあたって正確な臨床情報がなければ読影困難であることがわかる。“ごまかし医療”を行わないためにもしっかりと学んでもらいたい。
＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

			1	9/25	放射線概論・撮像論
			2	10/2	骨関節X線写真の基本
			3	10/16	頚椎・胸椎・腰椎・仙骨・肋骨・仙腸関節とその疾患
			4	10/23	肩関節・肩鎖関節・胸鎖関節とその疾患
			5	10/30	肘関節・手関節とその疾患
			6	11/6	股関節・恥骨結合とその疾患 膝関節
			7	11/13	膝関節のその疾患
			8	11/20	足関節とその疾患
			9	11/27	頭蓋・顎関節とその疾患
			10	12/4	後期期末試験
			11	12/11	試験解説、撮像論復習
			12	12/18	腫瘍性疾患(良性腫瘍)
			13	1/15	腫瘍性疾患(悪性腫瘍)
			14	1/22	全身性疾患・神経性関節症
			15	1/29	骨関節の感染症
			16	2/5	画像読影のまとめ・確認テスト

学習上の注意	板書以外に口頭で説明することも試験に出題する場合もあるのでメモをとること。 授業中の飲食、私語、PC、携帯電話、スマートフォン(必要な場合は可)の使用、無断退出は厳禁とする。 授業に積極的に参加すること。		
評価方法	期末試験、臨時試験、提出物、授業態度、出席を評価要素として総合的に評価する。 担当教員が授業態度が悪いと判断した場合は、減点の対象とする。		
教科書	『解剖学 第2版』『整形外科学 第4版』 (社)全国柔道整復学校協会編	参考書	『医療の中の柔道整復』 (社)全国柔道整復学校協会編

43	区分	専門分野	形式	講義	前期　水曜日 後期　木曜日
授業科目名		総合演習理論	単位数		4
担当教員		吉田裕輝・園部英貴・小枝宰・又吉啓太・立花要・菱沼良平	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

柔道整復師は従来から骨折、脱臼、捻挫及び挫傷を生業としているが、近年、超高齢社会への突入に伴い、介護分野における活躍も期待されている。また、医接連繋や地域包括医療の在り方の変革などの社会的変化に伴い、以前にもまして柔道整復師には多岐にわたる知識が求められている。そこで、本科目では柔道整復師にとって必要とされる知識全般を網羅的に学習していく。1,2年次に学習した内容の復習を行いつつ、前期では特に柔道整復師になるために必要な基礎的内容を学習し、後期では基礎を基にその応用力を深めるための演習を行うことで、柔道整復師になるために必要な知識の修得を目標とする。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/12	授業概要説明、評価方法	17	9/28	前期総復習及び学習計画立案と学習理論の実践方法
2	4/19	問題演習①（解剖学、生理学、運動学、病理学、法規、医療倫理、柔道、柔道整復理論）	18	10/5	柔道整復師に必要な解剖学応用演習①
3	4/26	問題演習②（衛生学、リハビリテーション医学、一般臨床医学、外科学、整形外科学）	19	10/12	柔道整復師に必要な解剖学応用演習②
4	4/26	問題演習③（柔道整復理論）	20	10/19	柔道整復師に必要な生理学応用演習①
5	5/17	柔道整復師に必要な解剖学基礎演習	21	10/26	柔道整復師に必要な生理学応用演習②
6	5/24	柔道整復師に必要な生理学基礎演習	22	11/2	柔道整復師に必要な運動学応用演習
7	5/31	柔道整復師に必要な運動学基礎演習	23	11/9	柔道整復師に必要な病理学応用演習
8	6/7	柔道整復師に必要な病理学基礎演習	24	11/16	柔道整復師に必要な衛生学・公衆衛生学応用演習
9	6/14	柔道整復師に必要な衛生学・公衆衛生学基礎演習	25	11/30	柔道整復師に必要な法規応用演習
10	6/21	柔道整復師に必要な法規基礎演習	26	12/7	後期期末試験
11	6/28	柔道整復師に必要なリハビリテーション医学基礎演習	27	12/14	柔道整復師に必要なリハビリテーション医学応用演習
12	7/5	柔道整復師に必要な一般臨床医学基礎演習	28	1/11	柔道整復師に必要な一般臨床医学応用演習
13	7/12	柔道整復師に必要な外科学基礎演習	29	1/18	柔道整復師に必要な外科学応用演習
14	7/19	柔道整復師に必要な整形外科学基礎演習	30	1/25	柔道整復師に必要な整形外科学応用演習
15	8/28	前期期末試験	31	2/1	柔道整復理論応用演習②
16	8/9	柔道整復理論基礎演習①	32	2/8	柔道整復理論応用演習②・確認テスト

学習上の注意	他科目と比較して学習内容が多分野にわたるため、特に授業時の実施内容を各自振り返るための復習を多く実施することを必須とする。
評価方法	前期・後期期末試験により評価する。これに授業態度や自己学習の進捗度合い等を加味し、総合的に評価する。
教科書	全国柔道整復学校協会監修・「解剖学」・「運動学」・「病理学概論」・「関係法規」・「一般臨床医学」（医歯薬出版）・「生理学」・「衛生学公衆衛生学」・「リハビリテーション医学」・「外科学概論」・「整形外科学」・「柔道整復学理論編」・「柔道整復学実技編」（南江堂）・「国家試験過去問題集徹底攻略柔道整復師用」（医道の日本社）

44	区分	専門分野	形式	講義	後期　火曜日
授業科目名		後療法理論	単位数		2
担当教員		小枝　宰	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

臨床の場で活かせる手技療法や、評価の方法を学ぶ。また、骨や筋の触診など実技を行い、問題解決能力の基礎を修得する。外傷後の早期復帰を目指した運動療法、物理療法を理解する。症状や経過を見極め、最適な後療法を選択できるようにする。
＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

			1	9/26	施術前の評価
			2	10/3	物理療法の理論・冷却療法
			3	10/10	物理療法の理論・温熱療法
			4	10/17	物理療法の理論・電気療法
			5	10/24	物理療法の理論・電気療法2
			6	10/31	物理療法の理論・超音波療法
			7	11/14	物理療法の理論・水療法
			8	11/21	物理療法の理論・牽引療法
			9	11/28	筋力増強訓練・MMT
			10	12/5	後期期末試験
			11	12/12	関節可動域訓練
			12	1/9	関節モビライゼーション
			13	1/16	関節運動学的アプローチ
			14	1/23	ストレッチ・上肢
			15	1/30	ストレッチ・下肢
			16	2/6	ストレッチ・下肢2・確認テスト

学習上の注意	実技の際には動きやすい服装、または白衣を着用すること。		
評価方法	後期末試験結果と授業態度・出席状況を総合的に評価する。		
教科書	柔道整復学　理論編／柔道整復学　実技編　（南江堂）	参考書	

45	区分	専門分野	形式	実技	通年　水曜日
授業科目名		整復実技1	単位数		2
担当教員		熊谷　将史・吉田　裕輝・園部　英貴	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

柔整固定法実技では骨折、脱臼、軟部組織損傷の保存的療法で必要になる基本的な包帯法の技術習得を目的とする。前期では基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法を主に行い、後期では軟性材料及び、硬性材料（厚紙副子、クラーメル金属副子、アルミ副子、熱可塑性キャスト材、絆創膏固定法など）を利用した固定法を行う。授業は原則として実習室で行う。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/12	授業の概要説明、実習室使用上の注意点、実技材料配布	17	9/27	冠名包帯法実技試験1
2	4/19	固定の目的、固定の種類、基本包帯法1	18	10/4	冠名包帯法実技試験2
3	4/26	基本包帯法2、3、4	19	10/11	厚紙副子1
4	5/10	基本包帯法5	20	10/18	厚紙副子2
5	5/17	基本包帯法6	21	10/25	金属副子1
6	5/24	基本包帯法復習	22	11/8	金属副子2
7	5/31	基本包帯法実技試験	23	11/15	三角巾1
8	6/7	中間試験	24	11/22	熱可塑性キャスト材1
9	6/14	基本包帯法7	25	11/29	熱可塑性キャスト材2
10	6/21	基本包帯法復習	26	12/6	硬性材料実技試験1
11	6/28	基本包帯法実技試験	27	12/13	硬性材料実技試験2
12	7/5	冠名包帯法1	28	1/10	絆創膏固定1
13	7/12	冠名包帯法2	29	1/17	絆創膏固定2
14	7/19	冠名包帯法3	30	1/24	絆創膏固定3
15	8/2	前期期末試験	31	1/31	後期期末試験
16	8/9	試験解説・冠名包帯法4	32	2/7	試験解説・絆創膏固定実技試験

学習上の注意	上下白衣を着用し身だしなみは整えること。 授業に関係ない私語や飲食、携帯電話の使用は無断退室は禁止とする。 包帯や固定材料は各自で管理し、授業の際に持参すること。		
評価方法	中間試験、前期末試験、後期末試験、各種実技試験を加味し評価する。		
教科書	「包帯固定学」、「柔道整復学　実技編」（南江堂）	参考書	

46	区分	専門分野	形式	実技	前期　月曜日 後期　火曜日
授業科目名		整復実技2	単位数		2
担当教員		園部　英貴・小枝　宰・吉田　裕輝・立花　要	履修年次		整復 1年次

【授業の概要・到達目標】

今後、柔道整復学を学ぶ際に、必要となる基礎的知識と基本的手技を修得する事を目標とする。人体における基本的用語などを学習すると共に、関節可動域の計測、四肢の周計・四肢長の計測などの実技を通して、客観的評価の姿勢を学び、将来の臨床に約立つテーマで授業を進めていく。また臨床実習前試験を通して臨床実習を行うにあたり柔道整復師としての心構えや身だしなみを問う。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/10	身だしなみ、施術者としての心構え	17	9/26	触診方法、人体区分のランドマーク
2	4/17	医療面接、臨床前施術試験	18	10/3	人体の区分線
3	4/24	包帯巻き器	19	10/10	頭頚部、体幹の骨　触診
4	5/8	基本包帯1	20	10/17	上肢の骨　触診
5	5/15	基本包帯2	21	10/24	下肢の骨　触診
6	5/22	基本包帯3	22	10/31	触診　実技試験
7	5/29	バイタルサイン測定	23	11/14	上肢長下肢長四肢周計(1)
8	6/5	中間試験、動的計測(徒手筋力テスト)①	24	11/21	上肢長下肢長四肢周計(2)
9	6/12	動的計測(徒手筋力テスト)②	25	11/28	関節可動域測定(1)
10	6/19	動的計測(関節弛緩性テスト)	26	12/5	関節可動域測定(2)
11	6/26	動的計測(日常生活動作)	27	12/12	関節可動域測定(3)
12	7/3	手技療法①	28	1/9	関節可動域測定(4)
13	7/10	手技療法②	29	1/16	腱反射概論、病的反射
14	7/24	手技療法③	30	1/23	腱反射のテクニック
15	7/31	前期期末試験	31	1/30	後期期末試験
16	8/7	体力測定	32	2/6	後期期末試験の解答、解説

学習上の注意	実技の際には白衣着用、私語等を慎む事。また飲食等は禁止とする。必要に応じて短パンを持参すること。		
評価方法	中間試験、前期末試験、後期末試験、実技試験を主とし、臨時試験、レポート提出、出席状況、授業態度などから評価する。白衣に着替えていない場合は評価点から減点の対象とする。		
教科書	『柔道整復学　理論編』 『柔道整復学　実技編』 全国柔道整復学校協会編	参考書	

47	区分	専門分野	形式	実技	前期　水曜日 後期　木曜日
授業科目名		整復実技3	単位数		2
担当教員		熊谷　将史・菱沼　良平・園部　英貴・立花　要	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

この授業では柔道整復師の日常業務において、比較的遭遇する機会の多い肋骨骨折や上肢の脱臼などについて授業を行う。それぞれの外傷によって特徴的な症状を把握し、整復操作、固定法、後療法など実践で役に立つ知識や技術の習得を目標とする。さらに、授業を通して医療に携わる者としての人間形成を養う。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/12	授業概要説明	17	9/28	肘関節脱臼1
2	4/19	肋骨骨折1	18	10/5	肘関節脱臼2
3	4/26	肋骨骨折2	19	10/12	肘関節脱臼3
4	5/10	肋骨骨折3	20	10/19	肘関節脱臼4
5	5/17	胸骨骨折	21	10/26	肘関節脱臼5
6	5/24	肩鎖関節脱臼1	22	11/2	実技試験
7	5/31	肩鎖関節脱臼2	23	11/9	実技試験
8	6/7	肩鎖関節脱臼3	24	11/16	肘内障
9	6/14	実技試験	25	11/30	ロッキングフィンガー
10	6/21	肩関節脱臼1	26	12/7	MP関節脱臼1
11	6/28	肩関節脱臼2	27	12/14	MP関節脱臼2
12	7/5	肩関節脱臼3	28	1/11	指節関節脱臼1
13	7/12	肩関節脱臼4	29	1/18	指節関節脱臼2
14	7/19	肩関節脱臼5	30	1/25	指節関節脱臼3
15	8/2	前期期末試験	31	2/1	後期期末試験
16	8/9	前期期末試験解答・解説	32	2/8	後期期末試験解答・解説

学習上の注意	白衣は必ず正しく着用し授業に臨むこと。授業には積極的な姿勢で臨むこと。 授業中の私語や飲食、携帯電話の使用は行わない。体調の異常があれば遠慮なく申し出ること。		
評価方法	出席すべき日数に満たしていない場合は評価しない。 前期末試験、後期末試験、実技試験、授業態度などで総合的に評価する。 白衣に着替えていない場合は評価点から減点の対象とする		
教科書	柔道整復学（理論・実技）南江堂	参考書	

48	区分	専門分野	形式	実技	通年　金曜日
授業科目名		整復実技4	単位数		2
担当教員		立花　要・又吉　啓太	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

この授業では、臨床で多く遭遇する上肢の骨折として鎖骨骨折・上腕骨骨折(外科頸・骨幹部・顆上・外顆・内側上顆)を中心に取り上げ、整復・固定の実技を行う。整復・固定における助手・術者の役割を十分に理解し、実際の臨床のイメージが出来るよう講義を進める。また、画像から診断・整復・固定・後療法・予後の判断が出来るよう学生間でディスカッションし、考える力を養う。認定実技審査後は上肢の骨折の理論も含め総復習を行う。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/7	整復、固定の基礎（術者と助手の役割）	17	9/22	整復・固定復習（応用1）
2	4/14	鎖骨骨折の整復1	18	9/29	整復・固定復習（応用2）
3	4/28	鎖骨骨折の固定1	19	10/6	整復・固定復習（応用3）
4	5/5	鎖骨骨折の固定2	20	10/20	整復・固定復習（応用4）
5	5/12	上腕骨外科頸骨折の整復・固定1	21	10/27	整復・固定復習（応用5）
6	5/19	上腕骨外科頸骨折の整復・固定2	22	11/10	指骨骨折の整復、固定
7	5/26	上腕骨骨幹部骨折の整復・固定1	23	11/17	上肢骨折の診察（画像をみながら)1
8	6/2	上腕骨骨幹部骨折の整復・固定2	24	11/24	上肢骨折の診察（画像を見ながら)2
9	6/9	上腕骨顆上骨折の整復・固定1	25	12/1	整復法・固定法・後療法（演習1）
10	6/16	上腕骨顆上骨折の整復・固定2	26	12/8	後期期末試験
11	6/23	上腕骨外顆骨折の整復・固定1	27	12/15	試験解説、 整復法・固定法・後療法（演習2）
12	6/30	上腕骨外顆骨折の整復・固定2	28	1/12	整復法・固定法・後療法（演習3）
13	7/7	上腕骨内側上顆骨折の整復・固定1	29	1/19	整復法・固定法・後療法（演習4）
14	7/14	上腕骨内側上顆骨折の整復・固定2	30	1/26	整復法・固定法・後療法（演習5）
15	7/28	前期期末試験	31	2/2	整復法・固定法・後療法（演習6）
16	8/4	試験解説、前期のまとめ	32	2/9	整復法・固定法・後療法（演習7)・確認テスト

学習上の注意	理論を理解した上で、積極的に反復して練習すること。 授業中の飲食・私語・携帯電話・スマートフォンの使用・無断外出は厳禁とする。 身だしなみ（白衣・爪・装飾品）を　整え授業に臨むこと。		
評価方法	期末試験、実技試験、臨時試験、授業態度（出席）などを評価要素として総合的に評価する。 実技授業であるため、積極的に参加しない場合や身だしなみが適切でない場合は減点対象とする。		
教科書	『柔道整復学理論編第7版』 『柔道整復学実技編第2版』 (社)全国柔道整復学校協会編	参考書	

49	区分	専門分野	形式	実技	後期　水曜日
授業科目名		整復実技5	単位数		1
担当教員		難波 英樹・吉田 裕輝	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

上肢の軟部組織損傷および頸部捻挫、腰部捻挫の診方と実技(検査法、治療法等)を修得する。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

			1	9/27	第1指MP関節側副靭帯損傷
			2	10/4	PIP関節側副靭帯損傷①
			3	10/11	PIP関節側副靭帯損傷②
			4	10/18	マレットフィンガー①
			5	10/25	マレットフィンガー②
			6	11/8	実技試験
			7	11/15	頚部捻挫
			8	11/22	腰部捻挫①
			9	11/29	腰部捻挫②
			10	12/6	腰部捻挫③
			11	12/13	腱板断裂／上腕二頭筋長頭腱損傷
			12	1/10	肘関節内側側副靭帯損傷
			13	1/17	上腕骨外側上顆炎／T.F.C.C.損傷
			14	1/24	実技試験
			15	1/31	後期期末試験
			16	2/7	試験の解答および解説

学習上の注意	授業中の私語は慎むこと。 実技授業は白衣を正しく着用すること。		
評価方法	出席日数の要件を満たしていること。 履修態度、実技試験、後期期末試験により総合的に評価する。		
教科書	「柔道整復学 理論編」「柔道整復学 実技編」 全国柔道整復学校協会編（南江堂）	参考書	

50	区分	専門分野	形式	実技	前期　木曜日 後期　火曜日
授業科目名		整復実技6	単位数		2
担当教員		粕谷 泰右・又吉 啓太・吉田　裕輝	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

臨床上多く遭遇する外傷や国家試験問題にも頻出する分野でもある為、正確な解剖学的特徴とともに、理論的に整復・固定を理解をする。臨床症例と画像を紹介しながら理解を深め現場で行かせる知識とする。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/6	指骨骨折1	17	9/26	前腕両骨骨折
2	4/13	指骨骨折2	18	10/3	コーレス骨折1
3	4/20	指骨骨折3	19	10/10	コーレス骨折2
4	4/27	中手骨骨折1	20	10/17	コーレス骨折3
5	5/11	中手骨骨折2	21	10/24	コーレス骨折4
6	5/18	舟状骨骨折	22	10/31	スミス骨折1
7	5/25	ベネット骨折	23	11/14	スミス骨折2
8	6/1	前腕骨遠位端部骨折1	24	11/21	舟状骨骨折1
9	6/8	前腕骨遠位端部骨折2	25	11/28	舟状骨骨折2
10	6/15	前腕骨遠位端部骨折3	26	12/5	舟状骨骨折3
11	6/22	モンテギア骨折1	27	12/12	ベンネット骨折1
12	7/6	モンテギア骨折2	28	1/9	ベンネット骨折2
13	7/13	肘頭骨折	29	1/16	中手骨骨折1
14	7/20	橈骨近位端部骨折	30	1/23	中手骨骨折2
15	8/3	前期期末試験	31	1/30	後期期末試験
16	8/10	実技試験	32	2/6	実技試験

学習上の注意	授業中の私語厳禁とする。積極的な姿勢で授業に臨むこと。		
評価方法	前期評価、後期評価の平均値を総合評価とする。		
教科書	柔道整復学　理論編／柔道整復学　実技編　（南江堂）	参考書	

51	区分	専門分野	形式	実技	通年　月曜日
授業科目名		整復実技7	単位数		2
担当教員		菱沼 良平・園部　英貴	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

本授業では、下肢の骨折・脱臼の整復法と固定法を中心に学習する。
授業を進行する上で、各傷病における検査法の実技や座学の確認も行う。
各傷病における整復と固定の意図を理解し、症例に合わせた整復法・固定法の選択ができるようにすることを目的とする。
下肢の骨折・脱臼は臨床で経験する傷病も多く、将来に役立つ技術の習得していく。
柔道整復師として10年以上の実務経験を生かして学生に臨床能力を身に付けさせる。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/10	股関節脱臼の鑑別診断	17	9/25	下腿骨近位部骨折の治療
2	4/17	股関節脱臼の治療	18	10/2	下腿骨骨幹部骨折の治療②
3	4/24	足根骨脱臼の鑑別診断	19	10/16	下腿骨遠位部骨折の鑑別診断
4	5/8	足根骨脱臼の治療	20	10/23	下腿骨遠位部骨折の治療
5	5/15	中足骨脱臼の治療	21	10/30	足根骨骨折の鑑別診断
6	5/22	趾節間関節脱臼の治療	22	11/6	足根骨骨折の治療
7	5/29	骨盤骨骨折の鑑別診断	23	11/13	中足骨骨折の鑑別診断
8	6/5	骨盤骨骨折の治療	24	11/20	中足骨骨折の治療
9	6/12	大腿骨近位部骨折の鑑別診断	25	11/27	趾骨骨折の治療
10	6/19	大腿骨近位部骨折の治療	26	12/4	後期期末試験
11	6/26	大腿骨骨幹部骨折の治療	27	12/11	後期期末試験の解答、解説
12	7/3	大腿骨遠位部の治療	28	12/18	膝関節脱臼の鑑別診断
13	7/10	膝蓋骨骨折の治療	29	1/15	膝関節脱臼の治療
14	7/24	下腿部骨幹部骨折の治療①	30	1/22	膝蓋骨脱臼の治療
15	7/31	前期期末試験	31	1/29	足関節脱臼の鑑別診断
16	8/7	前期期末試験の解答、解説	32	2/5	足関節脱臼の治療・確認テスト

学習上の注意	実技室での授業では白衣を正しく着て臨むこと。授業には積極的な姿勢で臨むこと。 学習項目の復習を行い、授業に臨むこと。他学生の学習を妨げる行為は厳禁とする。		
評価方法	前期期末・後期期末試験、各種実技試験、小テスト、授業態度等を評価要素として総合的に評価する。		
教科書	『柔道整復学 実技編』全国柔道整復学校協会 編（南江堂） 『柔道整復学 理論編』全国柔道整復学校協会 編（南江堂）	参考書	

52	区分	専門分野	形式	実技	前期　火曜日 後期　水曜日
授業科目名		整復実技8	単位数		2
担当教員		園部　英貴・小枝　宰・吉田　裕輝	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

この授業では大腿部、膝関節部、下腿部、足部の軟部組織損傷やそれに対応するテーピング実技を行う。それぞれの外傷によって特徴的な症状を把握し、処置の方法や固定法、後療法など実践で役立つ学術や技術の習得を目標とする。さらに、授業を通して医療に携わる者としての人間形成を養う。
柔道整復師として10年以上の経験から臨床で必要な軟部組織損の治療法を中心に臨床能力を身に付けさせる。
＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/11	腰背部部損傷に対する徒手検査法	17	9/27	膝のテーピング2（膝関節内側側副靭帯損傷）
2	4/18	腰背部損傷に対するテーピング	18	10/4	膝のテーピング3（前十字靭帯損傷）
3	4/25	顎関節症	19	10/11	足関節、膝関節のキネシオテーピング
4	5/9	大腿部損傷について（肉離れ、打撲）	20	10/18	大腿部のテーピング（大腿部肉離れ）
5	5/16	膝関節損傷について（前十字靭帯損傷）	21	10/25	下腿部のテーピング1（下腿三頭筋肉離れ）
6	5/23	膝関節損傷について（側副靭帯損傷）	22	11/8	下腿部のテーピング2（アキレス腱損傷）
7	5/30	膝関節損傷について（半月板損傷）	23	11/15	大腿部に対する徒手検査
8	6/6	下腿三頭筋、アキレス腱損傷について	24	11/22	膝関節に対する徒手検査
9	6/13	足関節外側側副靭帯損傷について	25	11/29	下腿部に対する徒手検査
10	6/20	下肢徒手検査法まとめ	26	12/6	後期期末試験
11	6/27	テーピング理論 （原理、目的、適応疾患、禁忌など）	27	12/13	足関節に対する徒手検査
12	7/4	足関節のテーピング1（運動制限を目的とする）	28	1/10	下肢損傷の柔道整復師業務範囲外の鑑別
13	7/11	足関節のテーピング2（運動制限を目的とする）	29	1/17	肩関節損傷に対するテーピング
14	7/18	足関節のテーピング3（関節誘導を目的とする）	30	1/24	肘関節損傷に対するテーピング1
15	8/1	前期期末試験	31	1/31	肘関節損傷に対するテーピング2
16	8/8	膝のテーピング1（膝関節内側側副靭帯損傷）	32	2/7	手関節損傷に対するテーピング・確認テスト

学習上の注意	実技の際には白衣着用、私語等を慎む事。また飲食等は禁止とする。必要に応じて短パンを持参すること。		
評価方法	前期末試験、後期末試験、授業態度、実技試験にて評価する。 白衣に着替えていない場合は評価点から減点の対象とする。		
教科書	『柔道整復学　理論編』『柔道整復学　実技編』 全国柔道整復学校協会編	参考書	

53	区分	専門分野	形式	実技	前期　月曜日 後期　金曜日
授業科目名		総合演習実技	単位数		2
担当教員		菱沼良平・園部英貴・小枝宰・又吉啓太・立花要・吉田裕輝	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

本授業は、外傷に対する診察法・検査法・整復法・固定法の能力を修得を目的する。
将来、柔道整復師として遭遇することの多い外傷において、診察法・検査法・整復法・固定法の理解を深め、臨床の現場に則した方法にて実践する能力・技術を習得していく。習得した能力・技術の向上のため、繰り返し実技練習を行っていく。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/10	肩鎖関節上方脱臼 診察及び整復の能力	17	9/22	全項目実技①
2	4/17	肩鎖関節上方脱臼[テープ固定] 固定の能力	18	9/29	全項目実技②
3	4/24	肩関節前方烏口下脱臼 診察及び整復の能力	19	10/6	全項目実技③
4	5/8	肩関節前方脱臼[局所副子・三角巾固定] 固定の能力	20	10/6	全項目実技④
5	5/15	肘関節後方脱臼 診察及び整復の能力	21	10/20	全項目実技⑤
6	5/22	肘関節後方脱臼[クラーメル副子・三角巾固定] 固定の能力	22	10/20	全項目実技⑥
7	5/29	第5指中手骨頸部骨折[アルミ副子掌側固定] 固定の能力	23	10/27	全項目実技⑦
8	6/5	手第2指PIP関節背側脱臼[アルミ副子背側固定] 固定の能力	24	10/27	全項目実技⑧
9	6/12	肩腱板損傷 診察及び検査の能力	25	11/7	後期実技試験①
10	6/19	上腕二頭筋長頭腱損傷 診察及び検査の能力	26	11/7	後期実技試験②
11	6/26	ハムストリングス損傷（肉ばなれ）、大腿四頭筋打撲 診察及び検査の能力	27	11/7	後期実技試験③
12	7/3	下腿三頭筋損傷（肉ばなれ） 診察及び検査の能力	28	11/7	後期実技試験④
13	7/10	肘内障 診察及び整復の能力	29	11/10	全項目実技⑨
14	7/24	肋骨骨折[さらしと厚紙副子固定] 固定の能力	30	11/10	全項目実技⑩
15	7/31	前期期末試験	31	12/8	後期期末試験
16	8/7	前期実技試験	32	12/15	総　括・確認テスト

学習上の注意	実技室での授業では白衣を正しく着て臨むこと。授業には積極的な姿勢で臨むこと。 学習項目の復習を行い、授業に臨むこと。他学生の学習を妨げる行為は厳禁とする。		
評価方法	前期期末・後期期末試験、各種実技試験、小テスト、授業態度等を評価要素として総合的に評価する。		
教科書	『柔道整復学 実技編』全国柔道整復学校協会 編（南江堂） 『柔道整復学 理論編』全国柔道整復学校協会 編（南江堂）	参考書	

54	区分	専門分野	形式	実技	前期　金曜日 後期　月曜日
授業科目名		外傷予防実技	単位数		2
担当教員		園部英貴・又吉啓太・菱沼良平	履修年次		整復 3年次

【授業の概要・到達目標】

近年は『健康寿命』という概念が広く知れ渡っている。しかしそれに対する考え方や実践方法に関して導ける人材が少ない。そのため本授業では高齢者に対する転倒予防等の実技を通して、理解し実践できるようにする。また外傷の予防や再発防止について身につけることも学修する。＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	4/7	日本における予防の概要と実際	17	9/25	高齢者の運動プログラム6
2	4/14	トレーニング理論・概要	18	10/2	高齢者の運動プログラム7
3	4/28	運動科学の概念と適応	19	10/16	高齢者の運動プログラム8
4	5/5	測定と評価（テストの選択と体力テスト）	20	10/23	高齢者の運動プログラム9
5	5/12	レジスタンストレーニング概要	21	10/30	高齢者の運動プログラム10
6	5/19	レジスタンストレーニング１（適応、禁忌、効果）	22	11/6	プライオメトリックトレーニング
7	5/26	レジスタンストレーニング２（フォーム、動作）	23	11/13	SAQトレーニング1
8	6/2	レジスタンストレーニング３（フォーム、動作）	24	11/20	SAQトレーニング2
9	6/9	レジスタンストレーニング４（補助テクニック）	25	11/27	SAQトレーニング3
10	6/16	無酸素性運動処方	26	12/4	後期期末試験
11	6/23	高齢者の運動プログラム1	27	12/11	アスレチックリハビリテーション1
12	6/30	高齢者の運動プログラム2	28	12/18	アスレチックリハビリテーション2
13	7/7	高齢者の運動プログラム3	29	1/15	アスレチックリハビリテーション3
14	7/14	高齢者の運動プログラム4	30	1/22	アスレチックリハビリテーション4
15	7/28	前期期末試験	31	1/29	アスレチックリハビリテーション5
16	8/4	高齢者の運動プログラム5	32	2/5	アスレチックリハビリテーション6・確認テスト

学習上の注意	実技の際には白衣着用、私語等を慎む事。また飲食等は禁止とする。必要に応じてジャージを持参すること。 B5横書きレポート用紙を各自用意すること。		
評価方法	前期末試験、後期末試験、授業態度（発表含む）、実技試験、レポートにて評価する。 白衣に着替えていない場合は評価点から減点の対象とする。		
教科書	『解剖学』『運動学』全国柔道整復学校協会編	参考書	

55	区分	専門分野	形式	臨床実習	後期
授業科目名		臨床実習1	単位数		1
担当教員		熊谷将史･園部英貴･小枝宰･又吉啓太･立花要･菱沼良平･吉田裕輝	履修年次		整復 1年次

【授業の概要･到達目標】

この授業では柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。
本校臨床実習施設内で実施する。
･接骨院実習
＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	接骨院の受付業務1			
2	接骨院の受付業務2			
3	患者来院時の受付業務1			
4	患者来院時の受付業務2			
5	院内の衛生管理について1			
6	院内の衛生管理について2			
7	院内の衛生管理について3			
8	施術の補助1			
9	施術の補助2			
10	施術の補助3			
11	施術の補助4			
12	患者の誘導1			
13	患者の誘導2			
14	物理療法についての理解			
15	物理療法機器の種類について			
16	物理療法機器の使用方法1			
17	物理療法機器の使用方法2			
18	物理療法機器の使用方法3			
19	物理療法機器の使用方法4			
20	患者に物理療法の実施１			
21	患者に物理療法の実施２			
22	患者に物理療法の実施３			
23	湿布作成と使用について	1コマ		

学習上の注意	＊積極的に臨む事。＊白衣の乱れ、服装、頭髪、爪、装飾品など患者さまの立場から見て不適切な印象を与えると思われた場合には実習の参加を認めないことがある。また、実習中の態度が悪く患者に迷惑がかかる、又は迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。
評価方法	1、欠席や遅刻は減点とする。2、実習時の授業態度を評価する。3、レポートなど各種提出物の期限を超えた場合は減点とする。

56	区分	専門分野	形式	臨床実習	通年
授業科目名		臨床実習2	単位数		2
担当教員		熊谷将史・園部英貴・小枝宰・又吉啓太・立花要・菱沼良平・吉田裕輝	履修年次		整復 2年次

【授業の概要・到達目標】

この授業では柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。
・実施場所：東京都内の施術所、本校臨床実習施設
・実習の方法および内容：本校臨床実習施設において臨床の概要や業務について学ぶ、その上で外部の実習場所である施術所にて柔道整復師の業務を理解し実践する。
・実習内容評価：各実習先での実習ごとに指導者の評価を受け、実習内容や実習で得た知識をまとめたレポートを提出する。
＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	接骨院の受付業務1	1コマ	24	殿筋ストレッチ法	1コマ
2	接骨院の受付業務2		25	四頭筋ストレッチ法1	
3	患者来院時の受付業務1		26	四頭筋ストレッチ法2	
4	患者来院時の受付業務2		27	腰痛のメカニズムとストレッチ1	
5	施術の補助1		28	腰痛のメカニズムとストレッチ2	
6	施術の補助2		29	上肢の機能解剖と評価	
7	患者の誘導1		30	上肢のストレッチの実施法	
8	患者の誘導2		31	体幹の機能解剖と評価	
9	物理療法についての理解		32	体幹のストレッチの実施法	
10	物理療法機器の種類について		33	患者に下肢ストレッチの実施	
11	物理療法機器の使用方法1		34	患者に上肢ストレッチの実施	
12	物理療法機器の使用方法2		35	患者に体幹ストレッチの実施	
13	物理療法機器の使用方法3		36	手技療法についての理解	
14	物理療法機器の使用方法4		37	手技療法の種類	
15	ストレッチの種類について		38	下肢の手技療法1	
16	下肢の機能解剖と評価について		39	下肢の手技療法2	
17	ハムストリングスの機能解剖について1		40	下肢の手技療法3	
18	ハムストリングスの機能解剖について2		41	上肢の手技療法1	
19	臀部筋の機能解剖について		42	上肢の手技療法2	
20	四頭筋の機能解剖について		43	体幹・腰部の手技療法1	
21	ハムストリングスストレッチ法1		44	体幹・腰部の手技療法2	
22	ハムストリングスストレッチ法2		45	患者に下肢の手技療法の実施1	
23	殿筋ストレッチ法		46	患者に下肢の手技療法の実施2	

学習上の注意	＊積極的に臨む事。 ＊白衣の乱れ、服装、頭髪、爪、装飾品など患者さまの立場から見て不適切な印象を与えると思われた場合には実習の参加を認めないことがある。また、実習中の態度が悪く患者さまに迷惑がかかる、又は迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。
評価方法	1、欠席や遅刻は減点とする。2、実習時の授業態度を評価する。3、レポートなど各種提出物の期限を超えた場合は減点とする。

57	区分	専門分野	形式	臨床実習	前期
授業科目名		臨床実習3	単位数		1
担当教員		熊谷将史･園部英貴･小枝宰･又吉啓太･立花要･菱沼良平･吉田裕輝	履修年次		整復 3年次

【授業の概要･到達目標】

この授業では柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。
･実施場所：東京都内の診療所、施術所、本校臨床実習施設
･実習の方法および内容：本校臨床実習施設において臨床の概要や業務について学ぶ、その上で外部の実習場所である診療所、施術所柔道整復師の業務を理解し実践する。
･実習内容評価：各実習先での実習ごとに指導者の評価を受け、実習内容や実習で得た知識をまとめたレポートを提出する。
＊実務経験を持つ担当教員による授業

【授業計画】

1	ストレッチの理解	1コマ		
2	ストレッチの種類について			
3	下肢の機能解剖と評価について			
4	ハムストリングスの機能解剖について			
5	臀部筋の機能解剖について			
6	四頭筋の機能解剖について			
7	ハムストリングスストレッチ法			
8	殿筋ストレッチ法			
9	四頭筋ストレッチ法			
10	腰痛のメカニズムとストレッチ			
11	上肢の機能解剖と評価			
12	上肢のストレッチの実施法			
13	体幹の機能解剖と評価			
14	患者に下肢ストレッチの実施			
15	患者に上肢ストレッチの実施			
16	患者に体幹ストレッチの実施			
17	手技療法の種類			
18	下肢の手技療法			
19	上肢の手技療法			
20	体幹･腰部の手技療法			
21	患者に下肢の手技療法の実施1			
22	患者に下肢の手技療法の実施2			
23	患者に下肢の手技療法の実施3			

学習上の注意	＊積極的に臨む事。 ＊白衣の乱れ、服装、頭髪、爪、装飾品など患者さまの立場から見て不適切な印象を与えると思われた場合には実習の参加を認めないことがある。また、実習中の態度が悪く患者さまに迷惑がかかる、又は迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。
評価方法	1、欠席や遅刻は減点とする。2、実習時の授業態度を評価する。3、レポートなど各種提出物の期限を超えた場合は減点とする。